

大規模公園ビジョン

Large-scale Park Vision

～ 神戸の未来に向けた大規模公園のあり方について ～

(案)

令和3年3月

神戸市



目 次

はじめに -----	1
第1章 背景と目的 -----	2
1. 人口減少社会の到来	
2. 公園の整備状況	
3. 国内外における近年の動向	
4. 神戸市の緑とオープンスペースに関する 法制度と主な計画・動き	
5. 検討の目的	
6. 対象とする公園	
第2章 大規模公園の現状と課題 -----	6
1. 歴史と成り立ち	
2. 神戸の緑と大規模公園	
3. 整備状況	
4. 管理運営状況	
5. 現在抱えている課題	
第3章 大規模公園の特徴 -----	9
1. 公園の立地特性	
2. 各公園及び周辺エリアに存在する特筆すべき資源	
3. 各公園の特性評価手法について	

第4章 大規模公園の将来の方向性-----	18
1. 基本的な考え方	
2. 重視すべき視点	
第5章 基本方針と施策展開イメージ -----	21
【基本方針1】都市を守るグリーンインフラの保全と育成	
【基本方針2】みんなに愛されるゆとり空間の創出と充実	
【基本方針3】KOBE ブランド構築に貢献する公園文化の発信と展開	
【基本方針4】持続可能な公園運営を実現するための改革と連携	
第6章 取り組みのイメージ -----	25
1. 趣旨	
2. エリア選定	
3. イメージプラン-1 <西須磨パークス>	
4. イメージプラン-2 <布引・再度山森林パークス>	
5. イメージプラン-3 <郊外里山パークス>	
第7章 ビジョンの展開 -----	33
1. 施策の進め方	
2. 広報と発信	
3. 進捗管理とフォローアップ	

はじめに

神戸の公園緑地史は、明治時代に、外国人居留地にわが国最初の公園のひとつである東遊園地が設置されたことや、当時禿山だった六甲山における多種多様な樹木を用いた植林事業にはじまります。

その後、昭和の初めには六甲山や瀬戸内海などに代表される神戸の地勢上の特徴を活かし、豊かな自然環境や風光明媚な景観に親しめるよう、あるいは時代の節目の記念事業として、須磨浦公園（昭和天皇御成婚記念）、森林植物園（紀元 2600 年記念）、再度公園（国指定名勝）といった神戸を代表する大規模公園が誕生しました。

太平洋戦争を経て、戦後から平成の時代にかけては、復興の歩みや経済成長に伴いレクリエーション需要が増大する一方、度重なる自然災害や環境問題への対応が求められるようになり、都市防災や環境保全、スポーツ・レクリエーション等の市民ニーズや様々な社会要請に応じた大規模公園が次々と造られました。

現在、神戸市内においては 20 近くの大規模公園が存在しますが、六甲山系の一翼を担い貴重な自然環境を形成する公園や市街地においてレクリエーションや観光、学びの拠点となっている公園、郊外のニュータウンや丘陵地・田園等においてスポーツや里山活動の拠点となっている公園など様々な性格を有しており、市民はもちろんのこと多くの来訪者に親しまれています。

かつて「公園は都市の窓であり、市民の肺である。」と昭和 8 年の東京都市計画報告にうたわれたように、特に大規模公園は都市内における美しい風景・景観を形作る場や清浄な空気、心地よい風を提供する場、都市住民の憩いや休養の場等として大きな役割を果たしています。

今日、世界的な気候変動や人口減少・超高齢化時代の到来、そして令和に入り世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響による「新しい生活様式」への対応など、社会情勢や人々の価値観が目まぐるしく変化していく中で、圧倒的な自然資源の量と質、オープンエアの空間を有する大規模公園が果たすべき役割はますます重要なものになってくると考えられます。

こうした中、喫緊の課題である施設の老朽化や利用の活性化などに対して、スピード感をもって的確に対応しつつ、今後はさらに中長期的な視点で豊かな自然環境を有する市民共有の財産として、それを守り、育てていくことを改めて認識した将来ビジョンの策定が必要と考えました。

本市では、本ビジョンをもとに、神戸を代表する大規模公園が有する自然力を継承するとともに、これからもどんどん魅力・活力を創造し発信していくことで、神戸を「さらなる高み」へ押し上げていきたいと考えています。そして次世代の子どもたちにすばらしい神戸のまちを引き継いでいけるよう、また神戸の未来が明るいものとなるよう努力してまいります。

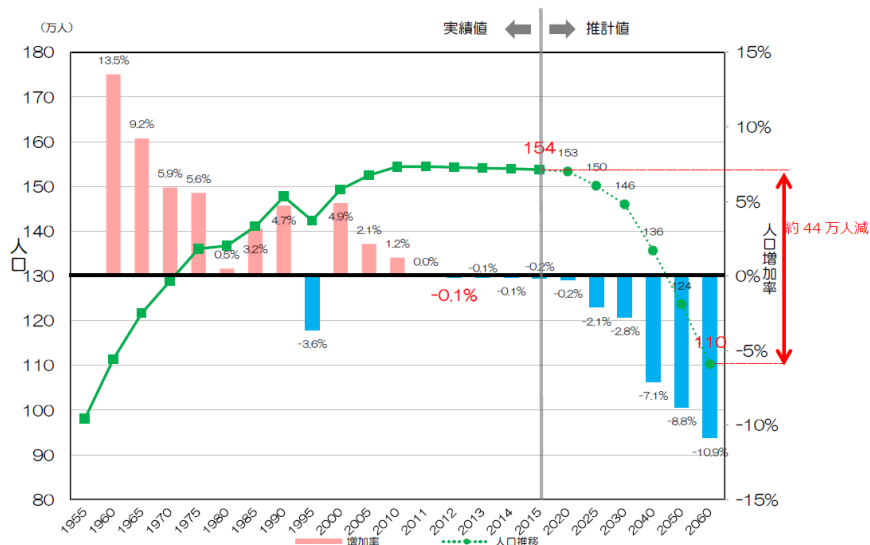
第1章 背景と目的

人口減少・超高齢化社会の進行や環境問題の顕在化など社会情勢が大きく変化している中で、多くの自然資源や土地、施設を有する大規模公園が果たすべき役割も変わらなければなりません。

一定のストックが蓄積されている神戸市においても、海・山・田園を持つ神戸の特色を生かし、持続可能で魅力ある財産となるよう国内外の様々な変化をとらえつつ、的確な対応が求められています。

1. 人口減少社会の到来

神戸市では、平成24年（2012年）から人口減少が始まっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠して算出した数値では、神戸市の人口は令和42年（2060年）には約110万人まで減少し、約44万人減と推計されます。



出典：(実績値) 国勢調査及び神戸市統計報告
(推計値) 国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口」に準拠して算出した数値

図-1 神戸市の人口推移と将来推計人口

2. 公園の整備状況

市民1人当たりの公園面積は、昭和48年の3.23㎡から平成30年には17.3㎡まで増加しており、公園ストックの蓄積が進んでいます。

一方で公園整備費予算は、平成4年の222億円と比較して平成28年には19億円となり、1/10以下に減少しています。

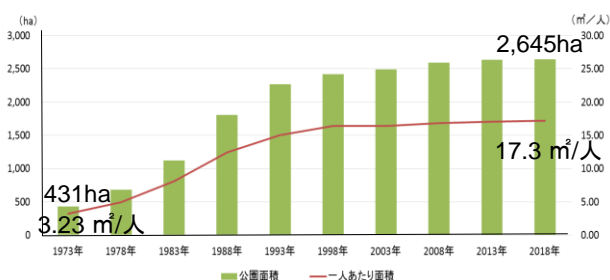


図-2 公園整備面積と一人あたり面積の推移

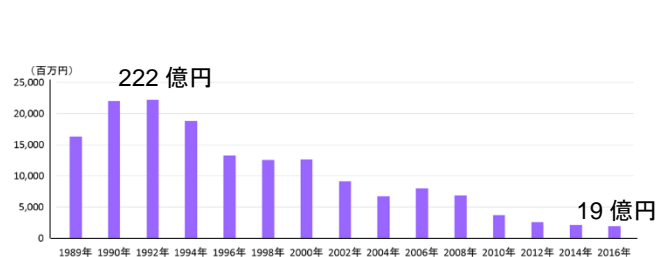


図-3 公園整備予算の推移

3. 国内外における近年の動向

緑とオープンスペースの施策に関係の深い海外や国内の近年の動きのうち、主なものは以下のとおりです。

① SDGs（持続可能な開発目標）

平成 27 年 9 月の国連サミットでは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択し、平成 28 年（2016 年）から令和 12 年（2030 年）までの国際目標として SDGs が定められました。

② グリーンインフラストラクチャー（グリーンインフラ）

国内ではグリーンインフラの取組みについて国土交通省が推進を位置づけ、令和元年 7 月に「グリーンインフラ推進戦略」が公表されました。

グリーンインフラストラクチャー

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生育・生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの

（国土交通省 グリーンインフラ推進戦略）

③ 明日の日本を支える観光ビジョン

観光面では、令和 12 年（2030 年）までに年間 6,000 万人の訪日外国人旅行者数を目標とした「明日の日本を支える観光ビジョン」が策定されました。

明日の日本を支える観光ビジョン - 3つの視点 -

視点① 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に

視点② 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

視点③ すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

（国土交通省 明日の日本を支える観光ビジョン）

④ 新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について

国土交通省により、新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会が開かれ、平成 28 年 5 月に「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」が公表され、今後の都市公園のあり方について新たな方向性が示されました。

「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」

1. 重視すべき観点

- ・ストック効果をより高める
- ・民との連携を加速する
- ・都市公園を一層柔軟に使いこなす

2. 新たなステージに向けた重点的な戦略

- ・緑とオープンスペースによる都市のリノベーションの推進
- ・より柔軟に都市公園を使いこなすためのプランニングとマネジメントの強化
- ・民との効果的な連携のための仕組みの充実

（国土交通省 新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会最終報告書）

4. 神戸市の緑とオープンスペースに関する法制度と主な計画・動き

神戸市は、明治期より公園整備や森林の保全に先駆的に取り組んできました。特に、昭和46年からはグリーンコウベ作戦を開始し、緑とオープンスペースの量的拡大が一定進みました。

これからは緑とオープンスペースが持つ機能を最大限に引き出すとともに、都市の変化に対応していく必要があることから、まずは身近な公園について平成30年2月に「KOBE パークリノベーション」を策定して公園の再生に取り組んでいます。

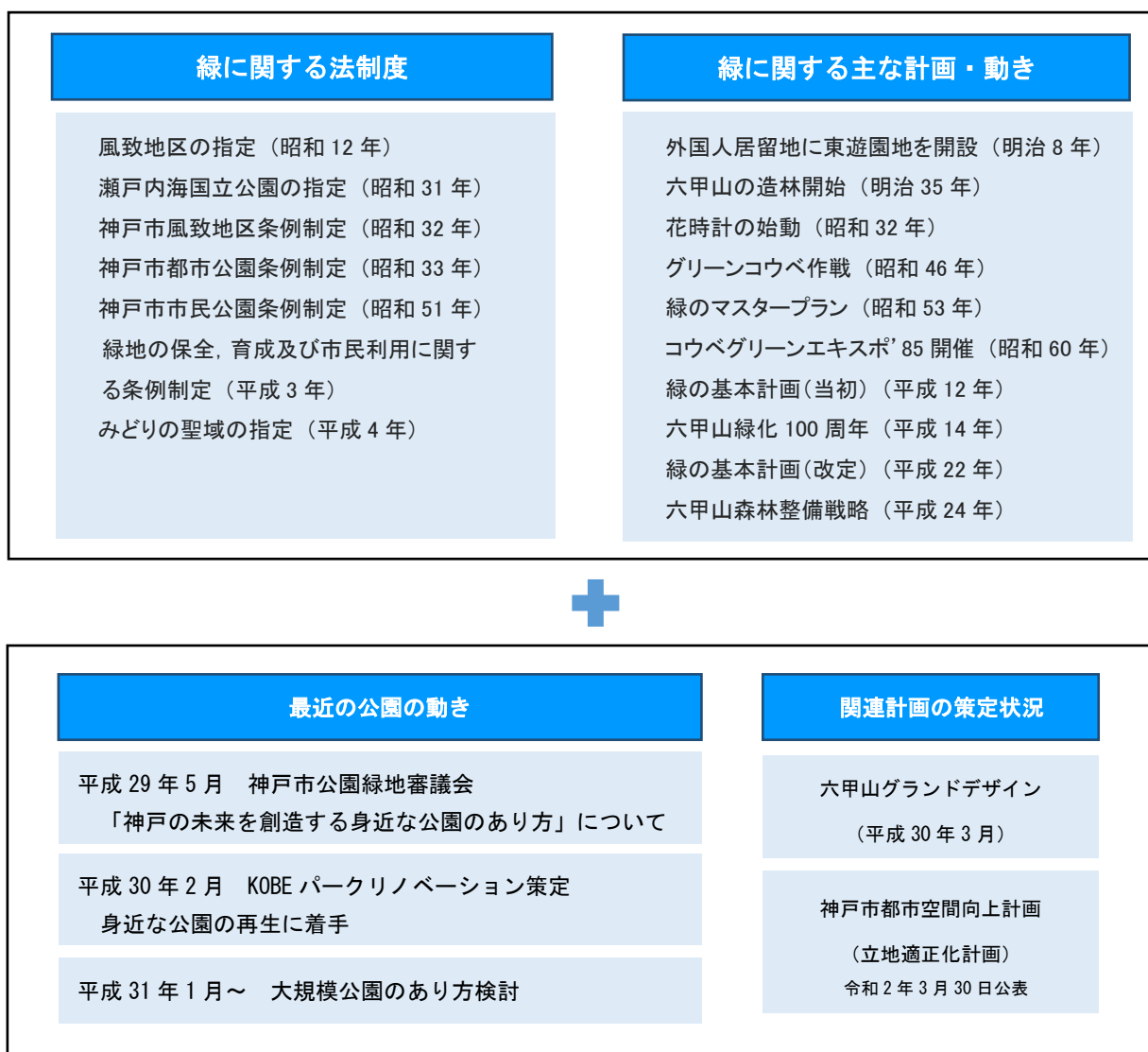


図-4 神戸市の緑に関する法制度と主な計画・動き

5. 検討の目的

大規模公園は広大な敷地を有し、豊かな自然環境を保全しているとともに、歴史的・文化的な資源を包含している神戸市の貴重な資源です。

社会情勢が大きく変化する中で大規模公園がその機能を十分に発揮するためには、現在の状況を的確にとらえた上で、未来に向けたあるべき姿やそれを実現するための方策について検討し、示していく必要があります。

今後、大規模公園が社会的な要請に応えていくために必要なリノベーション（改善・再構築）を進めるガイドラインとして、「将来の方向性」や「基本方針」、「取組みのイメージ」等について検討を行いました。

6. 対象とする公園

本検討では市内にある全 1,667 公園のうち、市内全域からの利用に加えて国内外からの来訪者の利用も想定される大規模公園として、総合公園・運動公園・広域公園の 16 公園と、歴史的価値や認知度の高い再度公園と相楽園の 2 公園を加えた計 18 公園を対象とします。

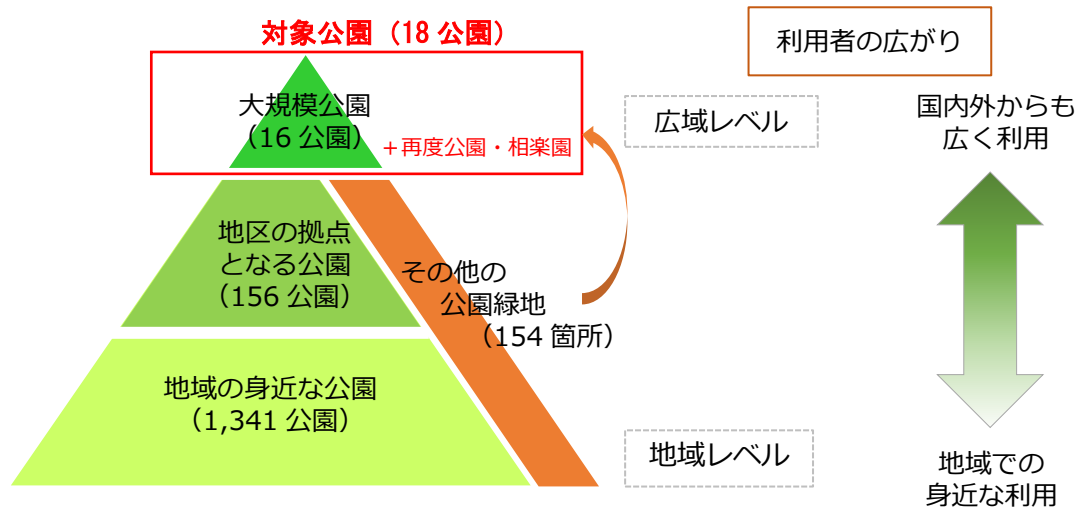


図-5 対象とする公園

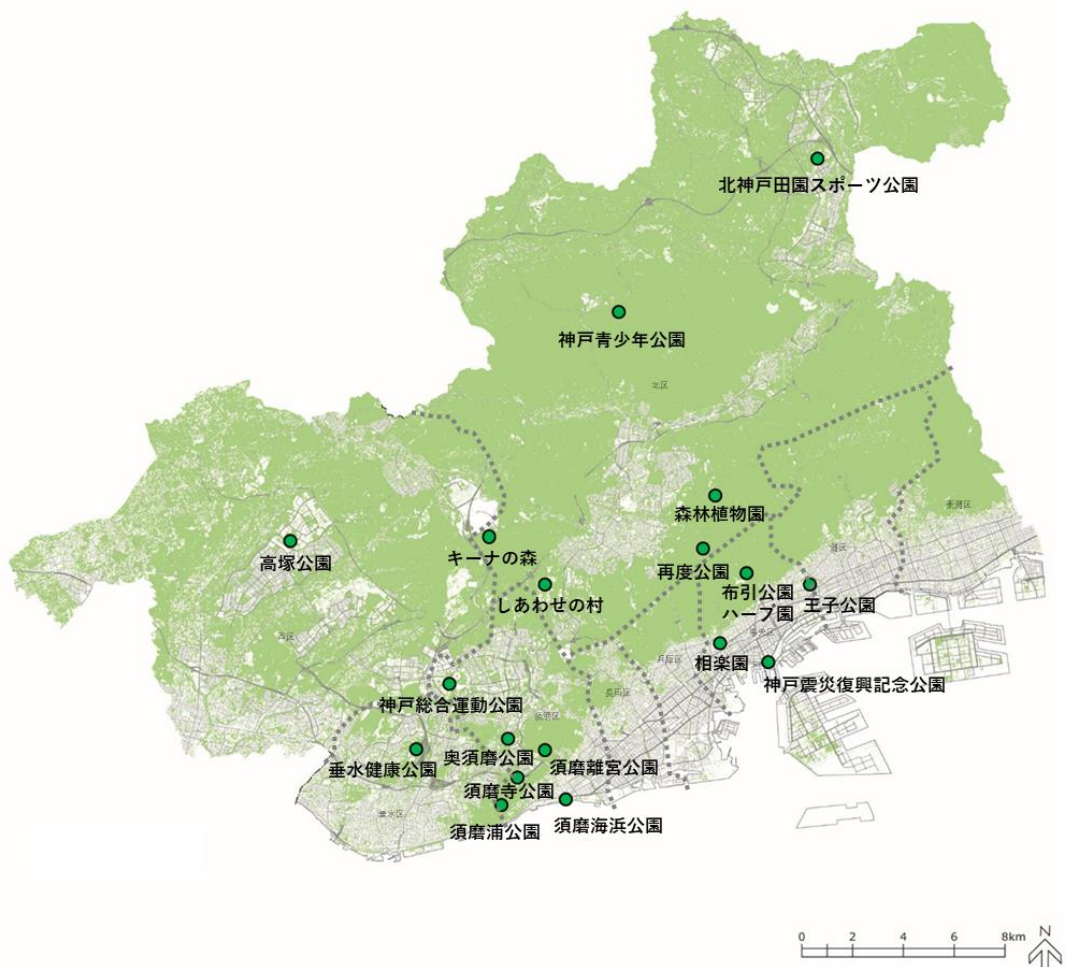


図-6 対象公園の位置図

第2章 大規模公園の現状と課題

大規模公園は昭和初期からの長い歴史の中で着々と整備され、神戸の緑の骨格の一翼を担う存在になるとともに、価値ある歴史的・文化的な資源を包含してきました。なお、これらを適切に守り、未来に継承していくため様々な手法で管理運営を行っています。

一方で、規模が大きく多様性に富んだ大規模公園では、施設の老朽化の進行や持続可能な社会への貢献などの様々な課題を抱えています。

1. 歴史と成り立ち

大規模公園の歴史や成り立ちは、時代の世相を大きく反映しています。ここではそれぞれの時代に合わせて、昭和のはじまりから戦争まで（第1期）、戦災からの復興（第2期）、高度経済成長と公害問題（第3期）、都市の拡大とバブル景気（第4期）、阪神淡路大震災以降（第5期）の大きく5つの期間に分類しています。

第1期	昭和のはじまりから戦争まで	明治元年 神戸港開港 明治8年 東遊園地の開設 明治35年 六甲山の植林開始 昭和10年 ①須磨浦公園:昭和天皇御成婚記念、御料地の下賜 昭和12年 ②再度公園:六甲山植林発祥の地 昭和13年 阪神大水害 昭和15年 ③森林植物園:六甲山地の自然科学の普及 昭和16年 ④相楽園:小寺邸庭園の寄贈 昭和16年-昭和20年 太平洋戦争 昭和20年 神戸大空襲
第2期	戦災からの復興	昭和25年 ⑤王子公園:日本貿易産業博覧会跡地の利用 昭和26年 ⑥海浜公園:住友別邸(空襲で焼失)の寄贈 昭和27年 ⑦須磨寺公園:「新吉野」こと須磨寺遊園地跡の整備
第3期	高度経済成長と公害問題	昭和40年 ⑧離宮公園:武庫離宮跡地、上皇陛下御成婚記念 昭和42年 昭和42年豪雨災害 昭和44年 ⑨奥須磨公園:自然環境を活かした公園
第4期	都市の拡大とバブル景気	昭和56年 ポートピア'81開催 昭和58年 ⑩神戸青少年公園:国際児童年(S54)を契機に青少年のレクリエーション需要への対応 昭和60年 ⑪神戸総合運動公園:ユニバーシアード神戸大会 昭和62年 ⑫しあわせの村:市政100周年事業 昭和61年~平成3年 バブル経済 平成3年 ⑬布引ハープ園:阪神大水害で被災した布引ゴルフ場跡地の公園整備 平成4年 ⑭高塚公園:西神団地内における最大の公園
第5期	阪神淡路大震災以降	平成7年 阪神淡路大震災 平成10年 ⑮垂水健康公園:神戸淡路鳴門道との一体整備 平成12年 ⑯北神戸田園スポーツ公園:中国自動車道との一体整備 平成23年 ⑰神戸震災復興記念公園(みなとのもり公園)震災15周年 平成29年 ⑱キーナの森:生物多様性保全の拠点

図-7 大規模公園の歴史と成り立ち

2. 神戸の緑と大規模公園

六甲山系や^{たいしやくたんじょう}帝釈丹生山系など都市の骨格を形成する貴重な緑地（緑の骨格）は、みどりの聖域（※1）や特別緑地保全地区（※2）の指定などにより保全・育成しています。この緑の骨格には再度公園や須磨浦公園など大規模公園も多く含まれています。

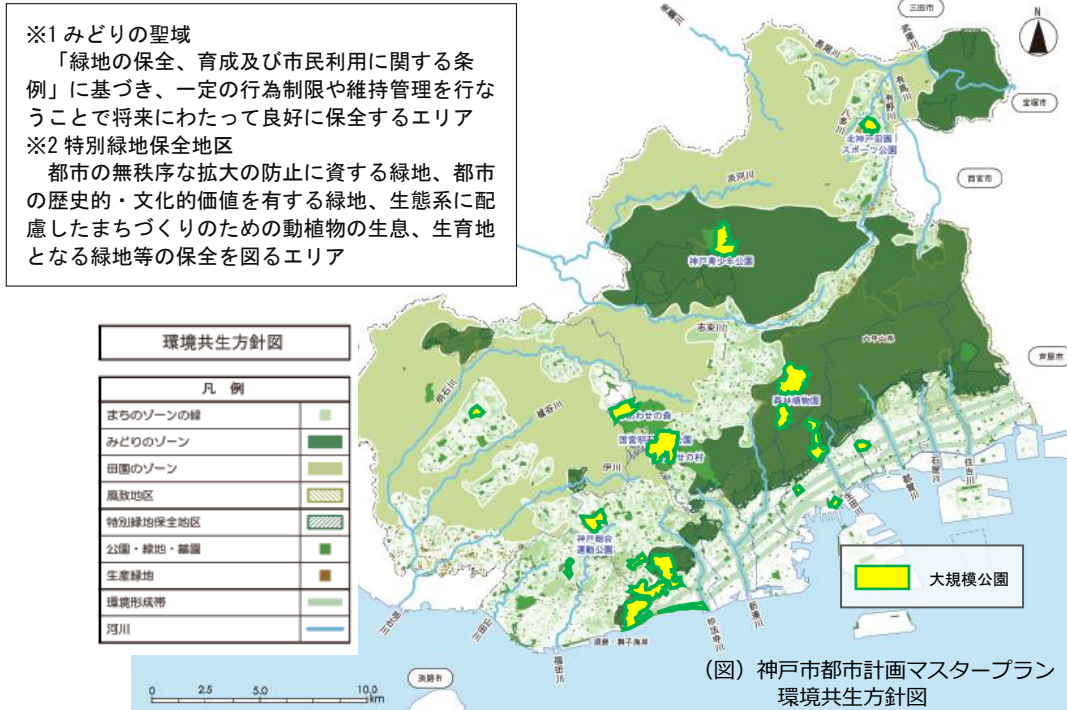


図-8 神戸市の緑と大規模公園

3. 整備状況

大規模公園 18 公園の開園面積の合計は約 856ha です。神戸市内の全公園（2,645ha、1,667 か所：平成 30 年度末時点）の約 30%に達します。

18 公園のうちで 10ha 以上の未開園区域が残っている公園が森林植物園など 7 公園あります。

表-1 大規模公園の整備状況

	公園名称	開園年	種別	開園面積 (ha)	未開園面積 (ha)
1	須磨浦公園	S10.8	総合	103.8	0.1
2	再度公園	S12.3	風致	51.5	0.0
3	森林植物園	S15.2	広域	96.4	34.9
4	相楽園	S16.11	風致	1.9	0.0
5	王子公園	S25.1	総合	19.2	0.3
6	海浜公園	S26.3	総合	14.0	15.0
7	須磨寺公園	S26.4	総合	31.9	45.3
8	離宮公園	S40.4	総合	82.6	29.8
9	奥須磨公園	S44.4	総合	17.3	2.1
10	布引公園	S49.12	総合	34.4	35.9
11	神戸青少年公園	S58.9	広域	89.9	14.5
12	神戸総合運動公園	S59.10	運動	58.8	0.0
13	しあわせの村	S62.7	広域	127.1	37.2
14	高塚公園	H4.4	総合	17.4	0.1
15	垂水健康公園	H10.4	総合	5.6	5.3
16	北神戸田園スポーツ公園	H12.1	総合	34.9	0.0
17	神戸震災復興記念公園	H23.1	総合	5.5	0.1
18	キーナの森	H29.7	総合	64.5	0.0
	合計			856.5	220.6

※しあわせの森のうち国営公園を除く

4. 管理運営状況

大規模公園には、いつでも自由に利用できる無料の公園と有料区域や有料施設のある公園があります。

有料区域や有料施設のある公園では利用者から入園料や使用料を徴収することで、手入れの行き届いた園地管理やスポーツ施設の利用など質の高いサービスを提供しています。

管理方法は公園の特徴や施設内容にあわせて、指定管理者制度・業務委託・直営管理等から適切な方法を選択しています。

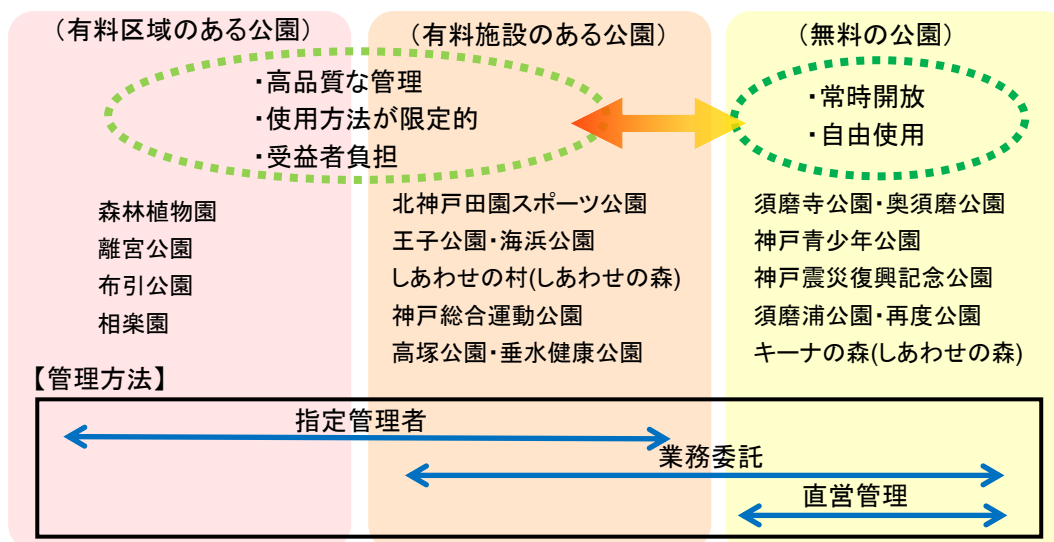


図-9 大規模公園の管理運営状況

5. 現在抱えている課題

大規模公園は多くの施設や幅広い機能を持っており、それぞれの公園の抱える課題も多岐にわたります。大規模公園の課題を6つの項目に分類し下表のとおりまとめました。

表-2 大規模公園の課題

項目	具体的な内容
1. 効率的・効果的な公園運営	① 老朽化・陳腐化の急速な進行 ② 限られた財源の中での整備・管理運営の順位付けの必要性 ③ 長期未開園エリアの存在
2. 持続可能な社会実現への貢献	① 地球温暖化等様々な環境問題への対応(環境負荷の軽減) ② 在来種の生息・生育空間の確保、外来種への適切な対策 ③ 環境学習等の教育機能の向上への対応
3. 自然災害への対応	① 自然林の手入れ不足等による防災力の低下 ② 防災拠点施設の機能強化の必要性 ③ ハザードマップ上の危険箇所への対策
4. 周辺地域や近隣施設との連携	① 地域コミュニティへの情報発信や機会提供不足 ② 近隣施設等との連携不足
5. 観光振興への貢献	① 案内の多言語化やICT活用等の対応の遅れ ② 公園資源の魅力減退による都市間競争力の低下 ③ 風致景観を形成する緑と歴史文化資源との一体的保全・活用
6. 協働の推進	① 市民やNPO等による協働活動への参加促進 ② 民間事業者等による資金やノウハウの活用

第3章 大規模公園の特徴

大規模公園は立地環境も成立過程も様々であり、それぞれの公園が豊かな個性を持っています。

個々の公園の特徴を的確に把握するため、立地特性について「都市空間構成」「法規制」「地形の傾斜」「観光エリア」「アクセシビリティ」の5つの観点から分析するとともに、公園が有する特徴ある資源について、文化財や記念物など歴史的・文化的な観点から整理しています。

また、今後これらの特徴を踏まえて、個々の公園における特性評価手法のあり方について検討しています。

1. 公園の立地特性

(1) 緑の都市空間構成

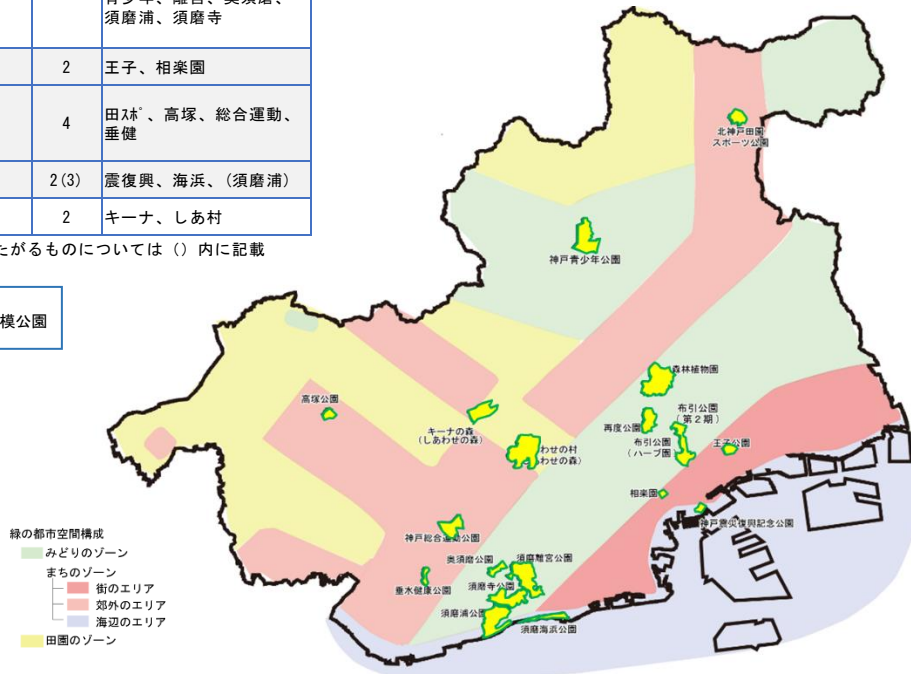
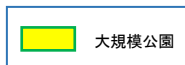
神戸市緑の基本計画では緑の特徴等を踏まえて、市域全体を大きく3つの都市空間に分類しています。18公園のうち、みどりのゾーンには森林植物園や再度公園等8公園、まちのゾーンには王子公園や海浜公園等8公園、田園のゾーンにはしあわせの村・キーナの森が立地しています。

みどりのゾーン（六甲山系）の西端と、海辺のエリアが交わる西須磨や、みどりのゾーン（六甲山系）の中央部には、大規模公園が集積する場所が存在しています。

また、六甲山系の北側に広がる田園ゾーンや、^{たいしゃくたんじょう}帝釈丹生山系にも大規模公園と周辺の緑が連担した場所が存在しています。

立地	エリア	公園数	大規模公園
みどりのゾーン		8	布引、森林、再度、青少年、離宮、奥須磨、須磨浦、須磨寺
まちの*ゾーン	街	2	王子、相楽園
	郊外	4	田木*、高塚、総合運動、垂健
	海辺	2(3)	震復興、海浜、(須磨浦)
田園のゾーン		2	キーナ、しあ村

*一部区域がまたがるものについては（）内に記載



出典：神戸市緑の基本計画グリーンコウベ 21 プラン

図-10 緑の都市空間構成

(2) みどりの法規制等

神戸市は「緑地の保全、育成及び市民利用に関する条例」に基づき、緑地において行為等の規制を行っています。なお、この区域内には森林植物園等7公園が立地しています。

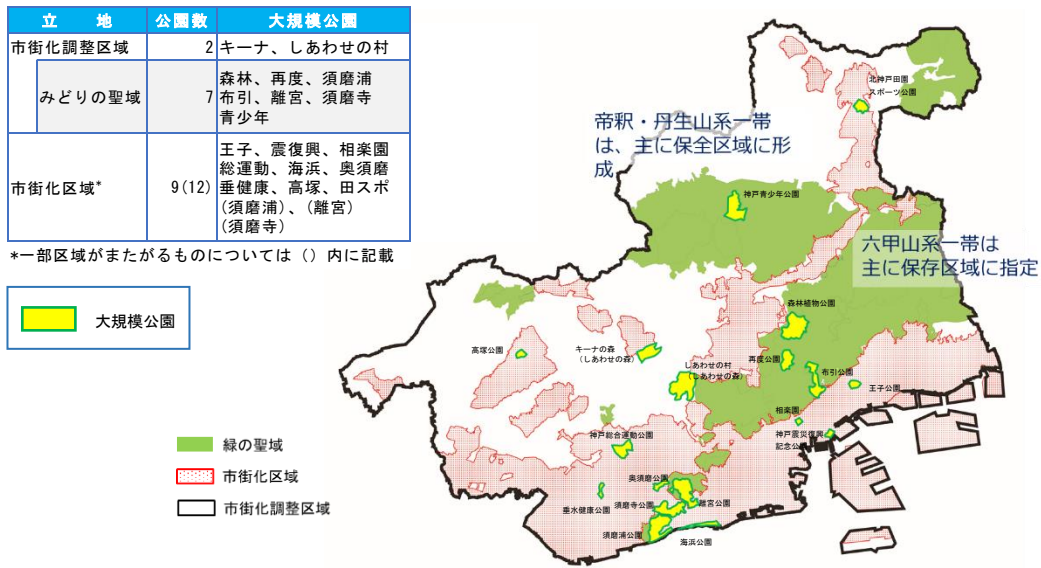


図-11 緑の法規制

(3) 地形の傾斜

大規模公園の立地する地形は、土地の傾斜度に応じて、①山と海にはさまれた低地、②急峻な山地、③内陸の山地、④内陸の緩やかな丘陵地・造成地、の4つの地形に分かれます。

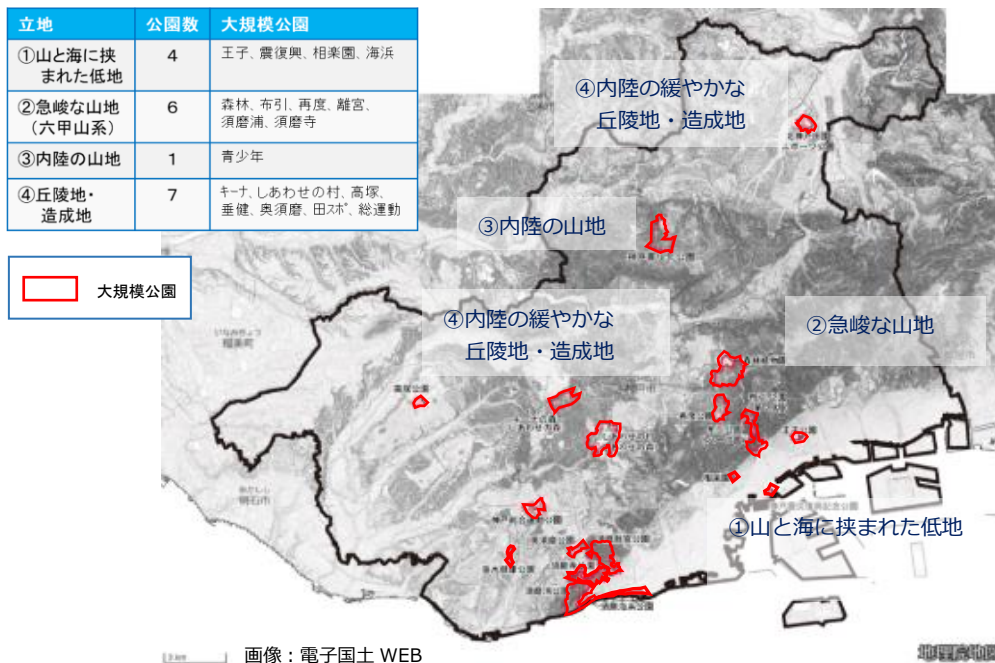


図-12 地形の傾斜

(4) 観光エリア

神戸市の観光エリアは、市街地、神戸港、六甲山・摩耶、須磨・舞子、西北神、有馬の各エリアに分かれており、「市街地エリア」に王子公園や相楽園など4公園、「六甲・摩耶エリア」に森林植物園や再度公園、「須磨・舞子エリア」に須磨浦公園や離宮公園など6公園、「西北神エリア」に北神戸田園スポーツ公園など6公園が含まれています。

立地	入込数 (万人)	公園 数	大規模公園
市街地 ●	1300	4	王子(151)、布引(37)、 震復興、相楽園(9)
六甲・摩耶 ●	200	2	森林(23)、再度、
須磨・舞子 ●	500	6	海浜(120)、離宮(32)、 須磨寺、須磨浦、奥須磨 垂健
西北神 ●	350	6	田スポ(21)、青少年、高塚 しあ村、キーナ、 総合運動(92)

※入込数はH29数値、

公園名の()内はH28有料区域・施設利用者

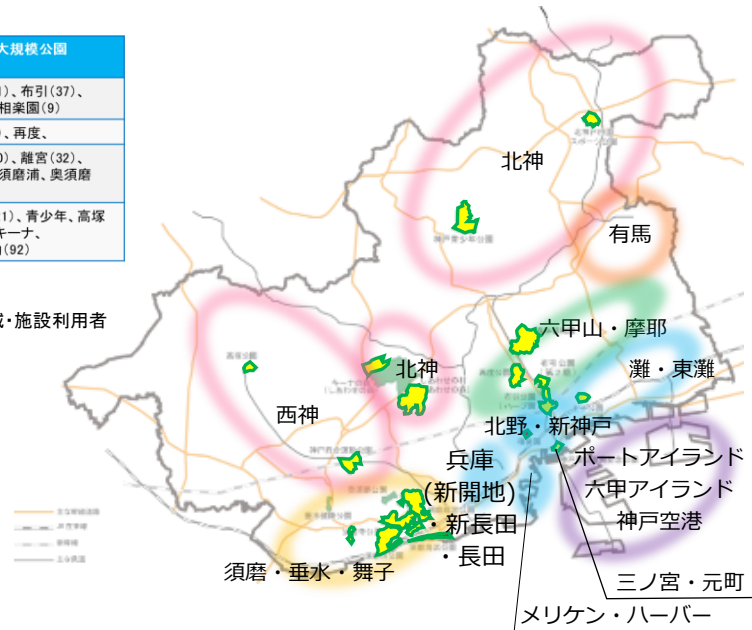
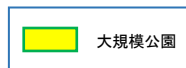


図-13 観光エリア

(5) アクセシビリティ（交通手段による公園へのアクセスのしやすさ）

公共交通ネットワークと主要幹線道路ネットワークとの関係から、鉄道・路線バス・自家用車の3つの交通手段による各公園のアクセシビリティを評価します。

① 鉄道

鉄道の駅から公園の入り口までが徒歩10分圏内に立地する、鉄道によるアクセシビリティが高い公園として、総合運動公園や須磨浦公園等の9公園が挙げられます。

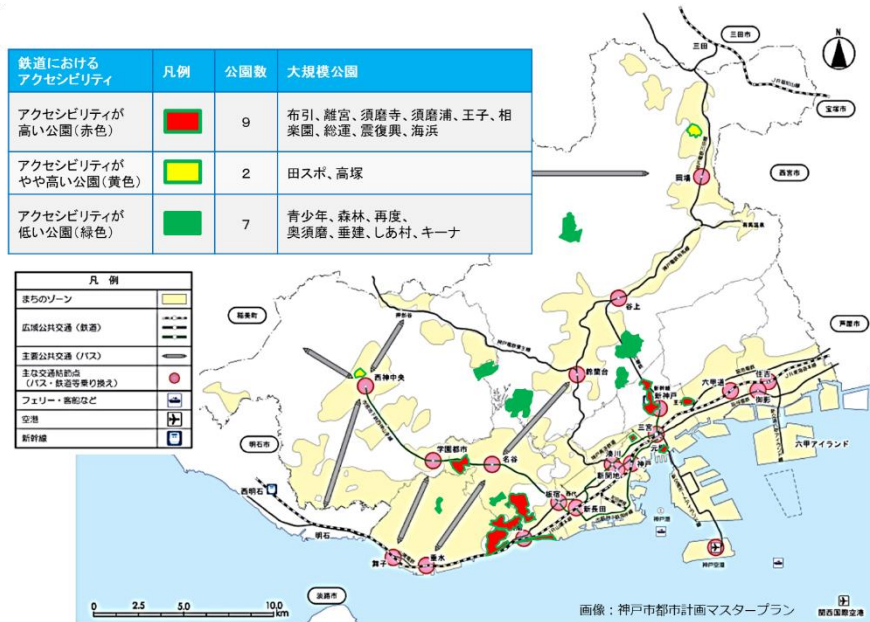


図-14 鉄道におけるアクセシビリティ

② 路線バス

最寄りのバス停から公園の入り口までが徒歩10分圏内に立地する、路線バスによるアクセシビリティが高い公園として、離宮公園やしあわせの村等の12公園が挙げられます。



図-15 路線バスにおけるアクセシビリティ

③ 自家用車

主要幹線道路ネットワーク（広域圏幹線道路、都市内幹線道路、補完的幹線道路）に近接し、公園内に十分な駐車場を備えている、自家用車によるアクセシビリティが高い公園として、森林植物園や海浜公園等 11 公園が挙げられます。

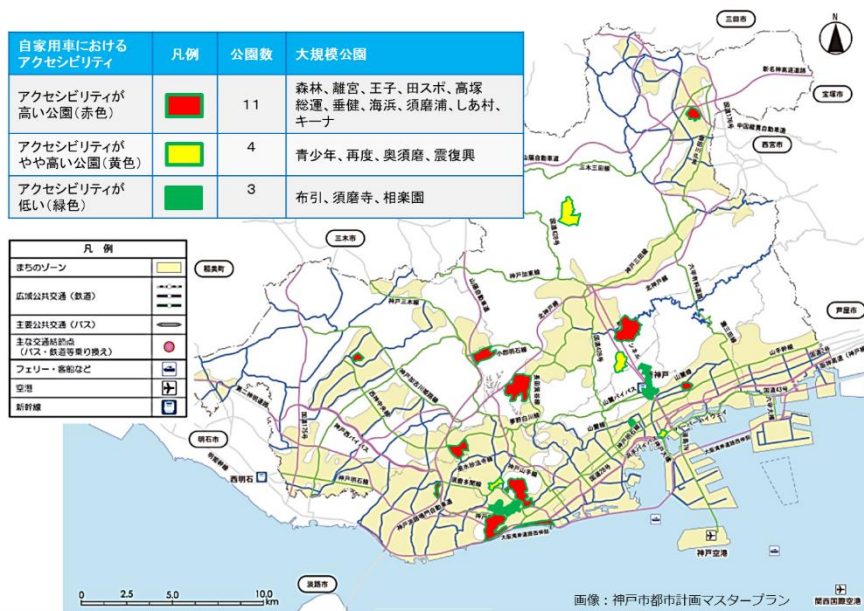


図-16 自家用車におけるアクセシビリティ

<アクセシビリティの評価>

各公園において、鉄道・路線バス・自家用車の3つの交通手段から、それぞれのアクセシビリティについて、高い(○)、やや高い(△)、低い(×)の3段階で評価します。

(例-1) 須磨浦公園

須磨浦公園では、山陽電鉄須磨浦公園駅と路線バスのバス停が直結する形になっています。

また、公園南側に主要幹線道路(国道2号線)が通っており、公園内には約220台の駐車場を備えています。

このため、鉄道・路線バス・自家用車のアクセシビリティがいずれも高い評価となります。

(例-2) キーナの森

キーナの森では、主要幹線道路の小部明石線に隣接しており、公園内には約100台の駐車場を備えています。公共交通である鉄道や路線バスは近くにありません。

このため、自家用車のアクセシビリティが高く、鉄道・路線バスのアクセシビリティが低い評価となります。

(6) 立地特性のまとめ

大規模公園の立地特性を緑の都市空間の分類別に、法規制・地形の傾斜・アクセシビリティ・観光の視点から以下のようにまとめました。

法規制や地形の傾斜が緑の都市空間の分類と関連していること、みどりのゾーン内には神戸青少年公園や再度公園のようにアクセシビリティが低い公園が存在すること、須磨・舞子観光エリアに多くの大規模公園が立地していること等がわかります。

表-3 大規模公園の立地的な特徴

		面積	法規制等	地形の傾斜	アクセシビリティ			観光 *1	
					鉄道	路線バス	自家用車		
みどりのゾーン	神戸青少年公園	89.9ha	みどりの聖域	内陸の山地	×	×	△	西北神	
	森林植物園	96.4ha	みどりの聖域	急峻な山地	×	△*2	○	六甲・摩耶 ★	
	再度公園	51.5ha	みどりの聖域	急峻な山地	×	△*2	△	六甲・摩耶	
	布引公園	34.4ha	みどりの聖域	急峻な山地	○	○	×	市街地 ★	
	離宮公園	82.6ha	みどりの聖域	急峻な山地	○	○	○	須磨・舞子 ★	
	須磨寺公園	31.9ha	みどりの聖域	急峻な山地	○	○	×	須磨・舞子	
	須磨浦公園*3	103.8ha	みどりの聖域	急峻な山地	○	○	○	須磨・舞子	
	奥須磨公園	17.3ha	市街化区域	丘陵地・造成地	×	○	△	須磨・舞子	
まちのゾーン	街のエリア	王子公園	19.2ha	市街化区域	山と海に挟まれた平地	○	○	○	市街地 ★
		相楽園	1.9ha	市街化区域	山と海に挟まれた平地	○	○	×	市街地 ★
	郊外のエリア	北神戸田園スポーツ公園	34.9ha	市街化区域	丘陵地・造成地	△	△*2	○	西北神
		高塚公園	17.4ha	市街化区域	丘陵地・造成地	△	○	○	西北神
		神戸総合運動公園	58.8ha	市街化区域	丘陵地・造成地	○	○	○	西北神 ★
		垂水健康公園	5.6ha	市街化区域	丘陵地・造成地	×	○	○	須磨・舞子
	海辺のエリア	神戸震災復興記念公園	5.5ha	市街化区域	山と海に挟まれた平地	○	○	△	市街地
		海浜公園	14.0ha	市街化区域	山と海に挟まれた平地	○	○	○	須磨・舞子 ★
		須磨浦公園*3	103.8ha	市街化区域	山と海に囲まれた平地	○	○	○	須磨・舞子
田園のゾーン	しあわせの村	127.1ha	市街化調整区域	丘陵地・造成地	×	○	○	西北神 ★	
	キーナの森	64.5ha	市街化調整区域	丘陵地・造成地	×	×	○	西北神	

*1 神戸公式観光サイトに掲載されている公園は★で表している。

*2 最寄りのバス停から公園の入り口まで徒歩 10 分圏内の立地であっても、バスの運行便数が少ない公園についてはアクセシビリティを「やや高い」と評価している。

*3 公園が「みどりのゾーン」と「まちのゾーン」の 2 つのゾーンにまたがるため、重複して記載している。

2. 各公園及び周辺エリアに存在する特筆すべき資源

大規模公園及び周辺エリアには、文化財や記念物など歴史的・文化的に価値の高い施設や特筆すべき資源等が存在します。これらは公園の特性にも大きく関わる重要な要素です。

表-4 大規模公園及び周辺エリアの資源

番号	公園名	公園内の魅力ある資源及び関連する特記事項	周辺エリアの公園に関連する特記事項	公園内及び周辺の文化財等 公園隣接施設は()書き
①	王子公園	コアラ等の人気動物を見られる動物園 様々な競技のできる運動施設 神戸登山研修所 夜桜通り抜け 神戸文学館 関西学院大学発祥の地	横尾忠則現代美術館 各種教育施設 商店街	【国指定重要文化財】 旧跡ハンター住宅
②	布引公園	神戸を一望できるロープウェイと約200種 75,000株の花やハーブが咲き集う日本最大級のハーブ園	布引の滝 布引水源池 北野異人館街	(布引水源池水道施設) 【国指定重要文化財】 五本松堰堤、砂子橋等
③	神戸震災復興記念公園 (みなとのもり公園)	震災から15年目の日に復興を記念して 開園した公園 ニューススポーツ広場 語り継ぎ広場(震災遺構)	東遊園地 デザイン・クリエイティブセンター	
④	森林植物園	25種350品種・約5万株を収集した 国内有数のアジサイ名所 約38種3千本の紅葉	弓削牧場 六甲山牧場	
⑤	神戸青少年公園	自然豊かなバーベキュー場 中山大池	淡河の田園風景 太陽と緑の道	
⑥	しあわせの村	福祉ゾーンと都市公園ゾーンが一体整備 された200ha以上の広大な空間	国営明石海峡公園 キーナの森	
⑦	キーナの森	生物多様性のシンボル拠点となる里山 キョスミウツボ等里山の希少種・炭素跡	国営明石海峡公園 こうべ環境未来館 しあわせの村	
⑧	北神戸田園スポーツ公園	初心者からプロまで満足できる野球場 などのスポーツ施設 里山、棚田(市民参画による活動)	フルーツフラワーパーク 神戸ジャンクションに隣接 八多町の田園風景	
⑨	須磨浦公園	源平や須磨の浦にゆかりの碑、松林、 サクラの名所(固有種:須磨浦普賢象) 六甲全山縦走路の起点	須磨浦山上遊園 須磨海つり公園(休止中) 一ノ谷公園(安徳天皇の史跡)	【市指定文化財】 教盛塚石造五輪塔
⑩	海浜公園	海水浴場と一体の白砂青松の景観 須磨海浜水族園 旧住友別邸跡 大正皇太子御手植えの松 ユニバーサルビーチプロジェクト	須磨ヨットハーバー 須磨海水浴場 網敷天満宮 村上帝社 松風村雨堂	【国登録有形文化財】 旧和田岬灯台
⑪	須磨寺公園	浮御堂等の歴史を偲ぶ施設 六甲縦走路や毎日登山の拠点となる おらが山	須磨寺 須磨寺前商店街	(須磨寺敷地内) 【県指定重要文化財】 石造十三重塔
⑫	離宮公園	武庫離宮の面影を留める施設 バラ園・噴水を含む欧風庭園 茜離宮(バラ) レストハウスリニューアル (ガーデンパタジェ須磨離宮)	離宮道 須磨アルプス 岡崎邸 神戸迎賓館(旧西尾邸)	
⑬	奥須磨公園	トンボやホタルの生息する小川、湿地 7つの池など自然地形の利用	多井畑厄神	
⑭	神戸総合運動公園	ユニバー記念競技場、グリーンアリーナ、 野球場等の大規模運動施設 コスモスの丘	神戸市外国語大学・芸術工科大学 が集積する学園都市に近接	
⑮	垂水健康公園	健康づくりから、フットサルなど、多種類の スポーツが楽しめる施設	垂水ジャンクションに隣接	
⑯	高塚公園	池、自然林、野球場、芝生広場 フィールドアスレチック	西神ニュータウンに隣接 インダストリアルパーク内に立地	
⑰	相楽園	神戸市都市公園唯一の日本庭園 船屋形、旧小寺廬舎、旧ハッサム亭 相楽園会館のリニューアル (THE SORAKUEN)	北野工房のまち 神戸ムスリムモスク(回教寺院)	【国の登録記念物(名勝)】 相楽園 【国指定重要文化財】 船屋形、旧小寺廬舎、旧ハッサム亭
⑱	再度公園	神戸外国人墓地・修法ヶ原池 ポートハウスのリニューアル (Re-encounter: カフェ・ランスタ等) 再度山永久植生保存地	大龍寺 洞川教育キャンプ場 大師道	【国指定記念物(名勝)】 再度公園 再度山永久植生保存地 神戸外国人墓地

3. 各公園の特性評価手法について

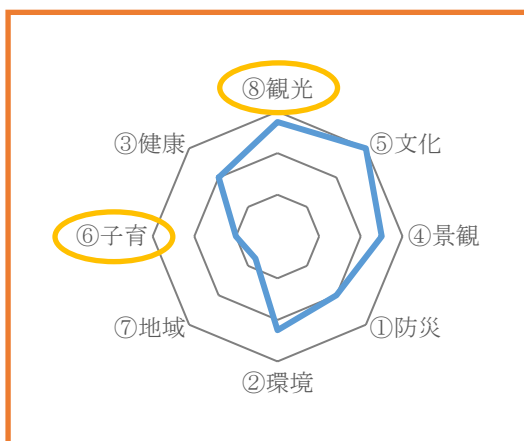
大規模公園は立地環境も成立過程も様々であり、それぞれの公園が豊かな個性を持っているため、これまで整理してきた立地特性や歴史的・文化的に価値の高い資源の分布状況等を把握することに加え、個々の公園において様々な評価指標を用いた特性評価を実施する必要があります。

なお、評価に際しては、これまで一般的に用いられてきた「防災」「環境」「景観」「文化」「健康」等の観点からの評価のみならず、神戸市が抱える課題や今後進めるまちづくりの方向性の視点を加味した評価指標を設定し、評価を実施します。

これにより、個々の公園の強み弱みをあぶりだし、より公園の価値を高めへと到達できるような目標設定や取り組みの方向性を見出していきます。

表－5 大規模公園の特性評価指標例

指標	評価項目	指標	評価項目
①災害に強い都市づくり 《防災》	火災の延焼の遅延・防止機能の有無	⑤歴史・文化の伝承・活用 《文化》	歴史や文化を伝承する施設の数
	地震災害時の避難場所・対策拠点の有無		歴史や文化を伝承するプログラムの有無
	自然災害による被害の軽減・防止機能の有無		公園設置の経緯と歴史・文化の関連性の有無
	防災教育の場の有無	⑥輝く子どもたちの未来の創造 《子育て・教育》	子ども向けの教室やスポーツ教室の有無
②自然と環境の保全 《環境》	近郊緑地保全区域・みどりの聖域の指定状況		子どもの遊び場の有無
	まとまった自然林や自然地形の有無		上位・関連計画での子育てや教育に関する拠点指定の有無
	ヒートアイランド現象の緩和への寄与	⑦地域における協働の推進 《地域活動》	地域が集まる行事やイベントによる交流機会の数
生き物の生息・生育環境の豊かさ	公園愛護団体等、公園での活動団体の数		
③健康創造都市 KOBE の推進 《健康》	スポーツ・健康関連施設の有無	⑧集客観光による経済振興 《観光》	神戸市公式観光サイトでの記載の有無
	文化関連施設等の有無		トリップアドバイザーの評価
	健康づくりプログラムの数		市外からの利用者の割合
④上質なまちづくり 《景観》	風致地区・名勝等への指定の有無		年間入場者数
	季節感のある植栽・施設・行事の有無		
	神戸フォトコレクション掲載枚数		



⑥輝く子供たちの未来の創造			
・子ども向けの教室やスポーツ教室の有無	4点	／4点	4点
・子どもの遊び場の有無	0点	／4点	
・上位・関連計画での子育てや教育に関する拠点指定の有無	0点	／4点	
⑧集客観光による経済振興			
・神戸市公式観光サイトでの記載の有無	3点	／3点	11点
・トリップアドバイザーの評価	3点	／3点	
・市外からの利用者の割合	3点	／3点	
・年間入場者数	2点	／3点	

図－17 特性評価の例

(参考) 公園の目標設定イメージ

今後、主要な公園での目標設定については、立地的な特徴や公園及びその周辺エリアに存在する特筆すべき資源に特性評価を加味することで、個別に実施していくことになります。

＜目標設定及び具体的な取り組みに至るフローのイメージ＞

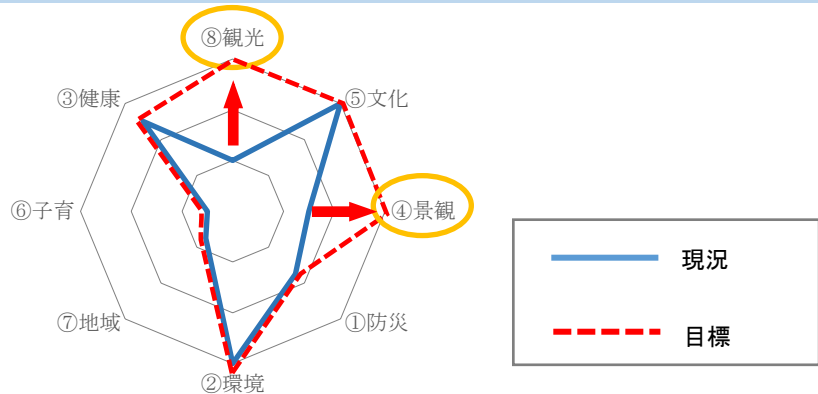
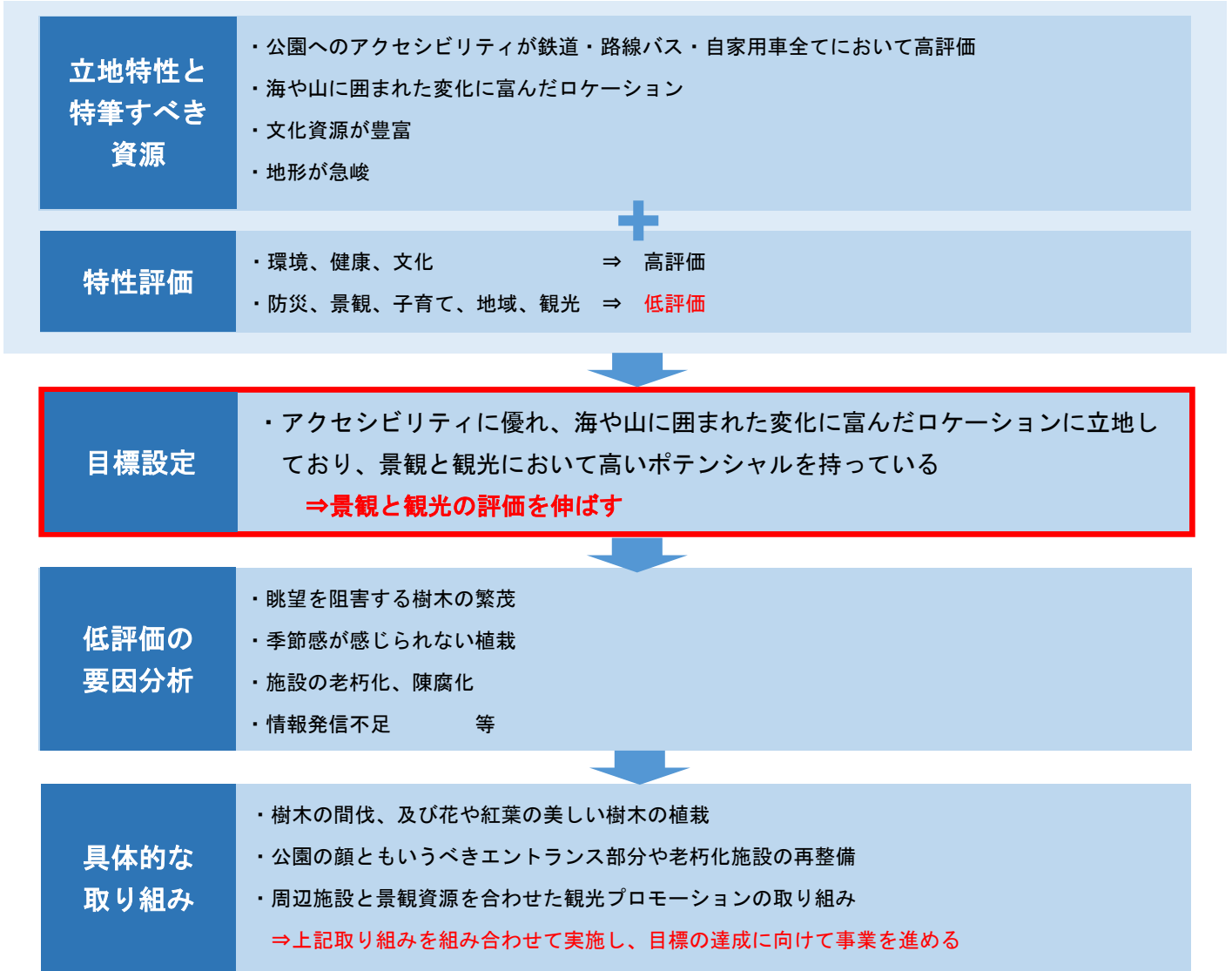


図-18 目標設定の例

今後、各公園でリニューアルを進めるにあたっては、このような評価分析を丁寧に実施し、強み弱みを把握したうえで、目標を設定し、適切な施策を展開する必要があると考えています。

第4章 大規模公園の将来の方向性

1. 基本的な考え方

神戸市では、戦前から六甲山系の豊かな緑を効果的に取り入れた大規模な公園緑地を確保し、また戦後になると経済成長に伴う余暇時間の増大やレクリエーション需要の拡大に対応するため、多様に富んだ個性ある公園を整備してきました。

また震災や数度にわたる大水害等の経験から得た教訓を活かして、市民の理解と協力を得ながら防災に資する公園も生まれました。

このように大規模公園は、歴史的な背景をもとに生まれ、今日まで市民の憩いやスポーツ・遊びの場としての利用、また自然環境の保全や防災・減災面において市民の暮らしを守る重要な社会資本としての役割を担ってきました。

昨今の自然災害の頻発や激甚化、感染症禍、人口減少や社会の成熟など、社会経済情勢の目まぐるしい変化を踏まえ、大規模公園は自らが有する豊かな自然とオープンスペースといったアドバンテージを活かし、今後、持続可能で魅力的な市民の財産としてさらに磨きをかけていく必要があります。これまでの「維持管理する資産」といった枠の中の発想から、「未来へ継承する資産」「柔軟に使いこなせる資産」「まちに開かれた資産」として再認識し、市民全体の利益につながるように大規模公園の価値のさらなる向上を図っていきます。

2. 重視すべき視点

神戸の未来に向けた大規模公園のあり方を考えていく上での重視すべき視点について、神戸市緑の基本計画の理念である「緑とともに永遠に生き続ける都市」を念頭に、第1章から第3章において整理してきた背景・現状・課題を踏まえ、かつ持続可能な社会の実現のための新たな国際的枠組みであるSDGsの精神を取り入れ、次の4つにまとめました。

◆ 豊かな自然を守り育てる

大規模公園は、神戸の公園のアイデンティティーでもある六甲山や西北神の山地や丘陵地など緑豊かな自然を含んでいます。これらの自然を適正に管理しながら守り育てることで次の世代につないでいきます。また、グリーンインフラについても積極的に取り組みます。

◆ 市民の暮らしの中にある

大規模公園は、全市的なスポーツや遊び等の拠点であると共に、災害時には防災拠点としても機能する場所です。公園の立地する地域の日常的な利用から災害時・非常時に至るまで、また、幼児から高齢者まで幅広く市民の暮らしに深く関わります。

◆ KOBEを伝え発信する

大規模公園には、動物園やハーブ園など神戸を代表する集客施設が含まれています。さらには、皇室文化や源平、外国人との関わり、また戦災・震災・水害など神戸の歴史・文化や災害を伝える史跡や記録が残されています。これらの神戸が培ってきた資源を発信するとともに、後世に伝えていきます。

◆ SDGs (※)の達成に貢献する

これらの3つの視点に加えて国際的な持続可能な開発目標であるSDGsの理念を採り入れ目標の達成に向けて取り組みます。 (※)次頁SDGsについて補足説明

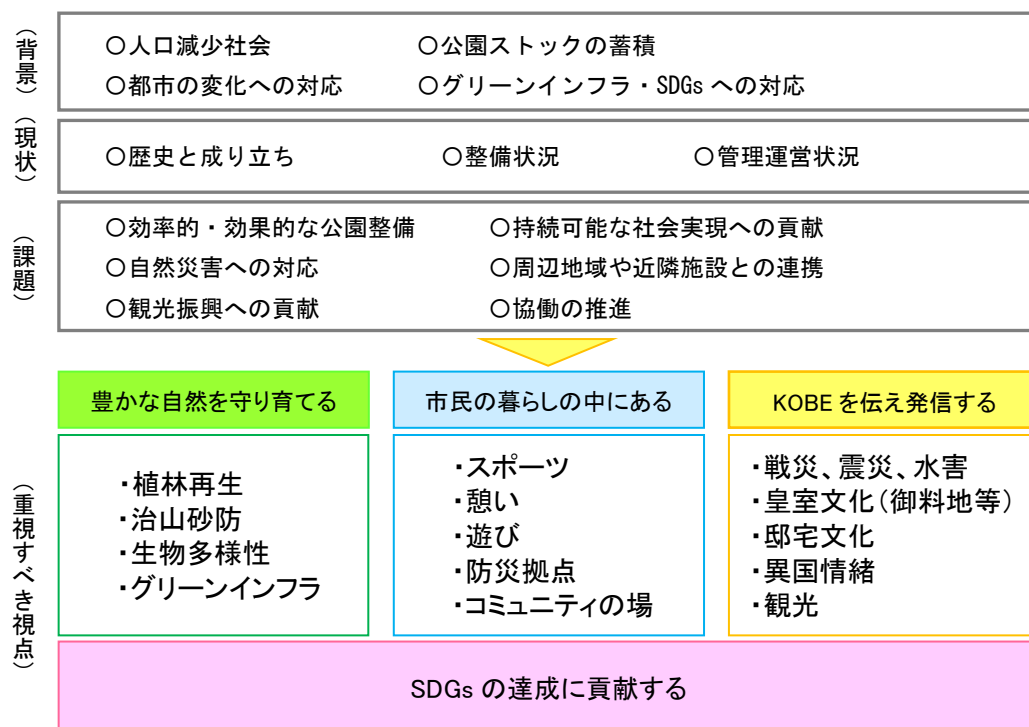


図-19 これからの大規模公園が重視すべき視点

(※) SDGsについて

SDGs（エスディーゼーズ：Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）とは、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、平成28年から令和12年（2030年）までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

SDGsの目標である「誰一人残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現は、これからの大規模公園のあり方を考える際にも重要な視点であると考えます。

SDGs 持続可能な世界を実現するための17のゴール（2030年までの国際目標）



なお、第5章の基本方針において、17のゴールのうち特に関連性の高いものについて該当するアイコンを表示しています。

(参考) SDGsと自然資本との関連について

SDGsの17の目標と自然資本との関連性を分かりやすく理解するために、TEEB(*1)のプロジェクトリーダーであったPavan Sukhdev氏と環境学者Johan Rockström教授が考案したのが下の図です。経済と社会が持続可能であるためには、自然資本がその必要条件であることが階層的に示されており、自然資本の保全が他の目標を下支えしていることが分かります。

■SDGsの“wedding cake”



出典) (株)インターリスク総研より資料提供

*1 TEEB

「TEEB」とは、「生態系と生物多様性の経済学 (The Economics of Ecosystem and Biodiversity)」の略称で、生態系サービスを経済的に評価し、自然の重要性の認識に役立てようとするもの。

左図SDGsの“wedding cake”と上記文章は、事業者のための生物多様性民間参画ガイドライン第2版（環境省）より抜粋

[\(http://www.env.go.jp/nature/biodic/gl_participation/\)](http://www.env.go.jp/nature/biodic/gl_participation/)

第5章 基本方針と施策展開イメージ

大規模公園が抱える課題の解決を図るとともに、社会的要請に応えていくため、第4章でまとめた重視すべき4つの視点に基づき基本方針を定めます。

また方針に沿って具体的な行動につなげるため、施策展開の具体例をまとめました。

【基本方針1】

都市を守るグリーンインフラの 保全と育成



大規模公園やその骨格をとりなす自然環境をグリーンインフラとして再認識し、それらが有する多様な機能（生物の生息環境・気温上昇の緩和・良好な景観形成等）を、行政が主体となって大切に保全します。また、グリーンインフラの持つ多様な機能を最大限に活かし、豊かで安全・安心な暮らしに寄与します。

<施策展開の具体例>

- ① 都市公園と緑地保全の事業・制度をバランスよく採り入れながら、良好な樹林地の保全と育成を図ります。
 - ・みどりの聖域等の法規制による良好な樹林地の保全
 - ・戦略的ゾーニングに基づく積極的な森林整備（六甲山森林整備戦略）
 - ・都市公園事業による散策路や休憩所等の整備
- ② 減災や気温低減、生物多様性の確保、美しい景観づくり等に寄与する取組みを行います。
 - ・水循環システムの導入（雨水貯留施設、雨庭等）、土壌の保全・改良
 - ・外来生物の対策と在来生物の生息環境の復元
 - ・神戸ゆかりの木（須磨浦普賢象・シチダンカ等）の植樹
 - ・郷土種を使った原風景の再現やルーラルランドスケープによる景観づくり
- ③ 様々な災害や非常時に対する備えを強化します。
 - ・災害時や非常時に役立つ防災施設（備蓄倉庫・非常用発電機・耐震性貯水槽等）やオープンスペース整備と適正な維持管理・運用
 - ・防災関係機関や指定管理者等と連携した各公園における危機管理体制の強化



（森林植物園の新緑景観）



（自然環境に配慮した斜面对策）

【基本方針2】

みんなに愛される

ゆとり空間の創出と充実



みんなが健康で快適な暮らしを享受できるよう、公園が持つ自然資源やオープンスペースを活用してゆとりある空間を提供していきます。また、神戸を代表するレクリエーションを楽しめる拠点として施設を充実させていくとともに、あらゆる人にとって居心地の良い場所（サードプレイス）となるよう、気軽に訪れ、日常的に使ってもらえることのできる開放的な空間づくりを目指します。さらに、将来を担う子どもたちの学びや心と体の健やかな成長の場となるよう活用していきます。

<施策展開の具体例>

- ① みんなが居心地良く充実した時間を過ごせる空間をつくります。
 - ・ 林間や水辺等のロケーションを活かした散策や憩いの空間の整備
 - ・ ニーズの多様化や健康・福祉の増進に柔軟に対応できる空間づくり
 - ・ 誰にとっても使いやすいユニバーサルデザインに対応した公園施設の設置
- ② 神戸を代表するスポーツ・遊び・健康づくりの拠点として更なる魅力向上を図ります。
 - ・ 市民の体力づくりから国際的な大会まで対応できるスポーツ施設のリノベーション
 - ・ 子どもがわくわくするような遊具や健康づくりのメッカとなるような施設の整備
- ③ 公園界隈や近接する施設等と連携して公園を地域に開いていきます。
 - ・ 近隣の学校や地域と連携したイベントや各種プログラム等の展開
 - ・ 地域住民が気軽に利用できる乳幼児コーナーや交流スペース等の施設の充実
 - ・ コミュニティガーデンやベジタブルガーデン等、地域が公園に関わる空間づくり
- ④ 森林や水辺など豊かな自然環境を活かした環境学習や自然体験の場を提供します。
 - ・ 教育機関等との連携による環境学習フィールドとしての積極展開
 - ・ NPO や各種団体等の協力による子どもの自然体験の場の提供
 - ・ 森林環境譲与税の活用による森林環境学習（森林整備にかかる普及啓発）



(森林植物園の水辺の散策路)



(しあわせの村のトリム園地)

【基本方針3】

KOBE ブランド構築に貢献する 公園文化の発信と展開



大規模公園がこれまで培ってきた歴史や公園文化を貴重な財産として継承するとともに、神戸らしさに磨きをかけ、広く発信します。また、複数の大規模公園や他の集客施設との連携を強化することで、神戸の都市ブランドの構築につなげます。

<施策展開の具体例>

- ① 歴史、文化などの資源や神戸が経験してきた災害の記憶や教訓を継承・活用するとともにこれらを神戸のアイデンティティーとして市内外に広く発信します。
 - ・ 離宮や御料林といった皇室文化や邸宅文化等を象徴する資源の保全
 - ・ 震災や水害などに関する痕跡やモニュメント等の保全・活用
 - ・ 多言語案内サインや SNS、ICT の利用など、全ての人にやさしい情報発信
 - ・ 神戸の持つ自然や歴史・文化、災害の教訓などを、市民や来訪者に学んでもらう場の提供

- ② 海・まち・山をあわせ持つ特徴的な地形を活かし、神戸の魅力を発信する個性の光る公園を目指します。
 - ・ 神戸らしさを体感できる個性の光る集客施設のリノベーション（海浜公園、離宮公園、布引ハーブ園 他）
 - ・ ここでしかみられないオンリーワンの風景づくり（森林植物園のメタセコイア並木、須磨浦公園山上からの眺望景観、再度公園の外国人墓地、王子公園のパンダとコアラ、映画のロケ地 等）

- ③ 複数の大規模公園や周辺施設等の連携により KOBE ブランドの構築に貢献していきます。
 - ・ 複数の大規模公園が立地するエリアでの公園間連携によるイメージづくりとブランド力の向上（共催ウォーキングイベントの開催 他）
 - ・ 公園周辺にある民間等の文化・レクリエーション施設との連携



（再度公園の外国人墓地）



（離宮公園の王侯貴族のパラ園）

【基本方針 4】

持続可能な公園運営を

実現するための改革と連携



持続可能な公園運営を実現するために“民産学官”（市民団体、民間事業者、教育・研究機関、行政）など多様な主体との協働や連携により、将来に渡り持続可能な管理運営の仕組みをつくります。また、選択と集中の観点による公園の見直しにより、社会の情勢やニーズに対応します。

<施策展開の具体例>

- ① 民間活力を導入することで利用者サービスの向上と維持管理の効率化を図ります。
 - ・ 民間活力導入による公園施設の質とサービスの向上
 - ・ 民間のノウハウを活用した効果的な運営方法や料金体系の構築
 - ・ DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進による公園利用者の利便性の向上
- ② 地域や市民団体との協働により愛着を感じる公園に育てます。
 - ・ 地域団体との協働による公園運営や公園内での活動を通じた情報発信
- ③ 教育・研究機関との連携により公園資源の価値を高めます。
 - ・ 動植物や歴史文化、景観や災害の記憶など大規模公園の有する多種多様な資源を研究機関の研究・実験の場として活用
 - ・ 大学や研究機関との連携による科学的知見の蓄積や知的財産の活用による新技術の導入
- ④ 人口減少等社会情勢の変化に合わせて施設や管理方法を改善します。
 - ・ 低利用な施設について用途の見直し（縮小・廃止・転活用等）
 - ・ 人口減少社会にあわせた持続可能な管理手法の導入（選択的管理^(※1)・順応的管理^(※2)の導入）

*1) 選択的管理…これまでの管理水準に対して、管理水準の抑制や従来の自然的土地利用への緩やかな変換を選択することで、人口減少による土地利用面積の減少や労働力の縮小に対応する管理手法

*2) 順応的管理…これまでの管理方法に対して、植物や生きものなどの環境や継続的なモニタリングの結果により管理の頻度や時期を適宜改善しながら行う管理手法

- ⑤ 時代のニーズを捉えて用途や区域を見直します。
 - ・ 山林区域における公園整備から緑地保全への転換
 - ・ 必要性や実現性の低い都市計画公園の区域の見直し
 - ・ 都市機能の再編と連動した公園機能の転換や見直し



（しあわせの村冒険アドベンチャーパーク）



（離宮公園と神戸女子大学とのコラボレーション
はちみつ料理共同開発）

第6章 取組みのイメージ

1. 趣旨

大規模公園が日常的に市民に愛され暮らしの中に溶け込んだ空間になるとともに、市外・海外からもわざわざ訪れたい場所にするためには、何をどのように取り組んでいく必要があるのか。そのような思いの中、これまでの取り組みに加え、「複数の大規模公園や周辺施設の連携による神戸ブランドの構築」や「公園界隈や近接する施設等と連携して公園を地域に開く」といった新しい視点を盛り込み、将来の大規模公園像を実現するための取組みのイメージを考えてみました。

ここでは、複数の大規模公園及び歴史・文化資源等が集積しているエリアを一団の公園群ととらえ、生物多様性や生態系のネットワークの形成に寄与するよう、豊かな自然環境や趣のある風致景観を守り育てていきます。また、公園群内の各拠点が連携することで新たな価値を生み出し、ニューツーリズムの拠点となるよう、必要な施設のリノベーションや情報発信を行います。さらに、市民が日常的に公園空間に親しめるような様々な取組みを進めていきたいと考えています。

2. エリア選定

対象エリアとして、神戸のまちを特徴づけている「海辺」「森林」「田園」の各エリアに位置しており、複数の大規模公園が集積又はつながりをもっている3か所の公園群を選定します。

六甲山系の西端及び瀬戸内海に囲まれた風光明媚なロケーションに立地する、須磨浦公園、須磨寺公園、離宮公園、海浜公園等の公園群を「西須磨パークス」、都心に近く豊かな自然が広がるロケーションに立地する、森林植物園、再度公園、布引公園等の公園群を「布引・再度山森林パークス」、田園や里山などどこか懐かしい風景を醸し出すロケーションに立地する、神戸青少年公園、キーナの森、しあわせの村等の公園群を「郊外里山パークス」とします。

これら3つの公園群において、公園や周辺施設等の連携を行うことで、地域全体を盛り立てていきます。

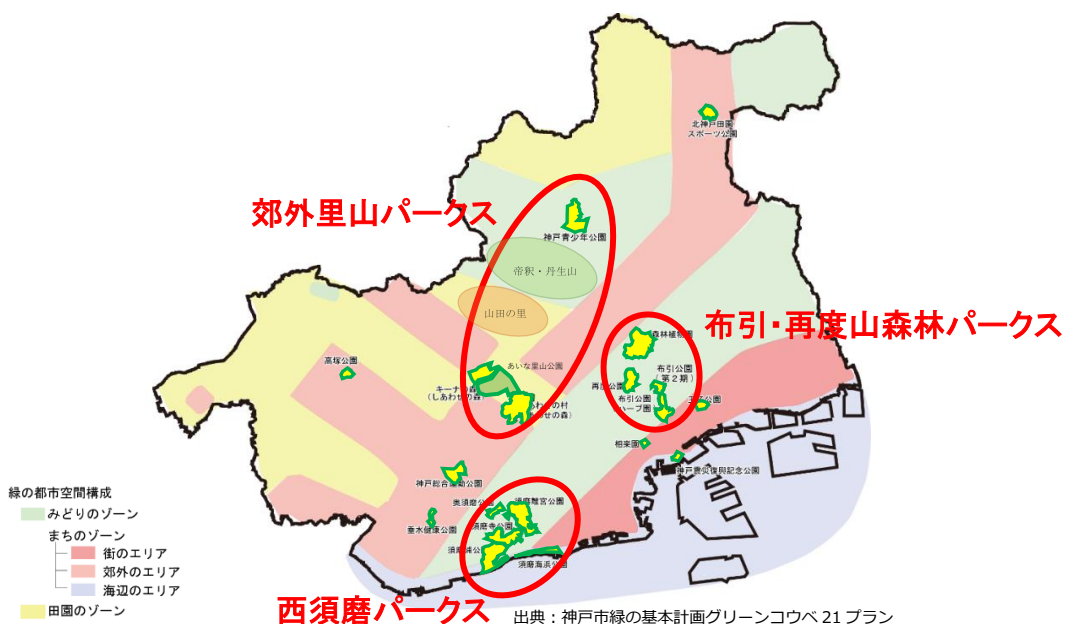


図-20 取組みのイメージのエリア選定

3. イメージプランー1 <西須磨パークス>

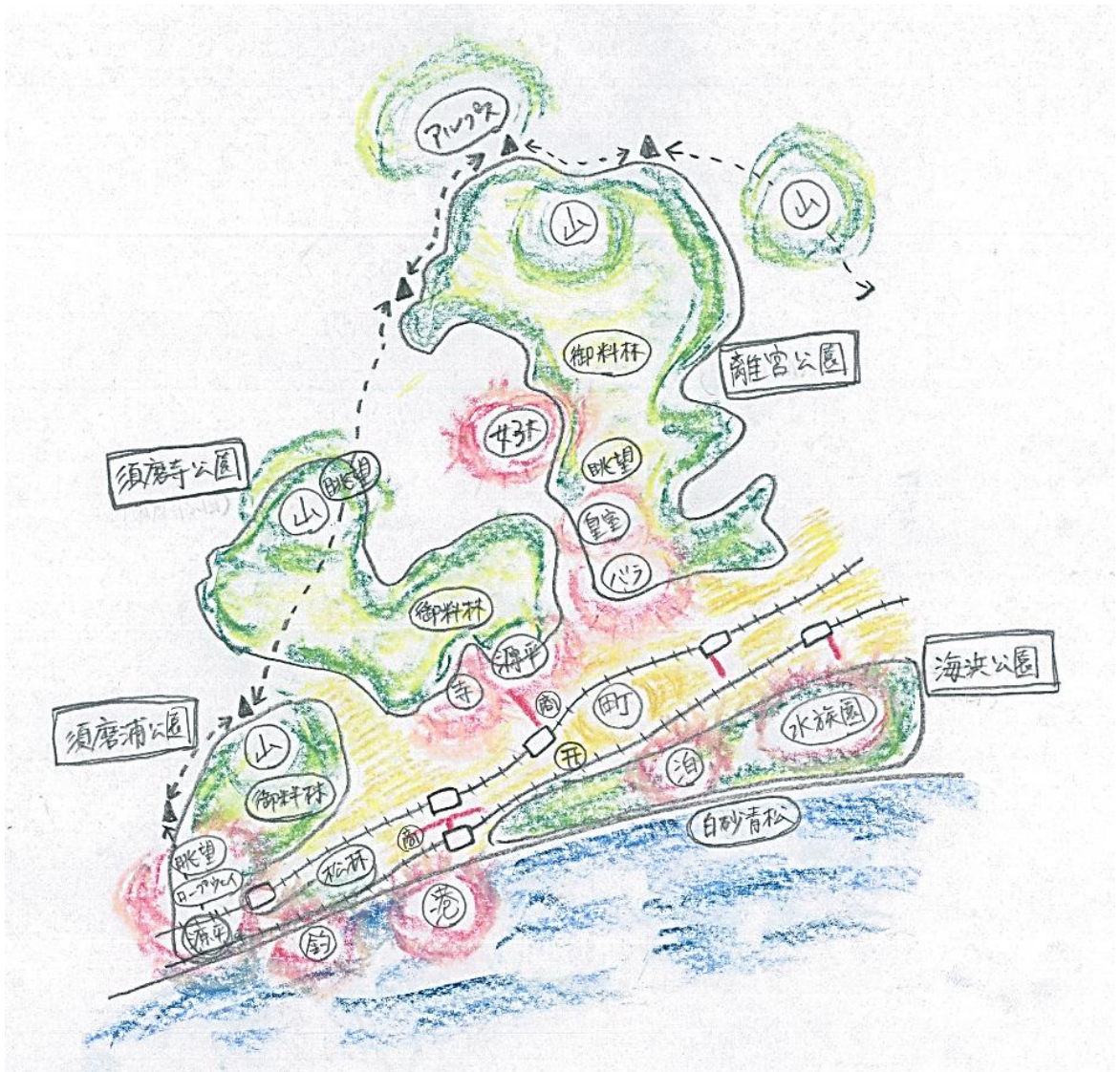


図-21 エリアの魅力分布図

(1) エリアの特徴

西須磨エリアは、海や山などの自然、源平や皇室などの歴史文化に彩られ、立地特性に由来する資源も多いことや、4つの公園に囲まれるように町が存在していることが特徴です。

(2) エリアの戦略

西須磨エリアの特徴から、公園と公園に囲まれた町、または公園と公園とが連携することにより、豊かな自然はもちろんのこと、地域で暮らす人や、地域に根差す文化など西須磨のもつ特徴ある資源をこれまで以上に観る・体感することができるよう「西須磨パークス」の戦略を以下のとおり考えました。

- 1) 公園をみがき公園をつなげる
- 2) 地域とつながり神戸を見せる

(3) 具体的な取組み例

エリアの特徴を活かしさらに伸ばすための2つの戦略に沿った具体的な取組み例です。

1) 公園をみがき公園をつなげる

① 公園フロントの魅力アップ (各園×市)

(海浜公園)

- ・P-PFIによる水族園の建替えと周辺園地のリノベーション

(須磨浦公園)

- ・須磨浦普賢象を活かした桜の名所づくり
- ・山上遊園、海釣り公園と連携した3園のエントランスとなる駅前周辺整備

(須磨寺公園)

- ・大池周辺の整備
- ・神戸明石線沿いの美しい景観形成

(離宮公園)

- ・皇室ゆかりの上質な景観づくり(庭園や遺構)
- ・茜離宮(バラ)、RIKYU HONEY(はちみつ)などのオリジナルブランドの発信

② エリアを回遊するための仕掛け (各園×交通事業者×地域×市)

- ・周遊チケット、回遊交通手段の確保(回遊バス・レンタサイクル等)
- ・散策路、フットパス(歩きたくなる小径)の情報発信、PR

③ ハイキングコース、展望施設等の整備 (市)

2) 地域とつながり神戸を見せる

① 地域住民とつながる (地域×市)

- ・地域のためのプレイロットや健康コーナーの設置
- ・公民連携で運営するコミュニティーガーデン

② 地域の大学等とつながる (大学×市)

- ・相互利用・共同研究、学生活動への開放
- ・大学とイベントの共催(キャンパス・パーク連携の強化)

③ 地域の商店街とつながる (商店街×市)

- ・駅～商店街～公園の経路でエリアのPR
- ・商店街と公園のイベント同時開催

④ 周辺施設とつながる (交通事業者×民間×市)

- ・須磨浦山上遊園、須磨海釣り公園との連携(リノベーション、商品開発等)



図-22 西須磨パークスの考え方



(海浜公園のリノベーション 完成イメージ)



(シアトルP-patch(コミュニティーガーデン))

4. イメージプラン-2 <布引・再度山森林パークス>

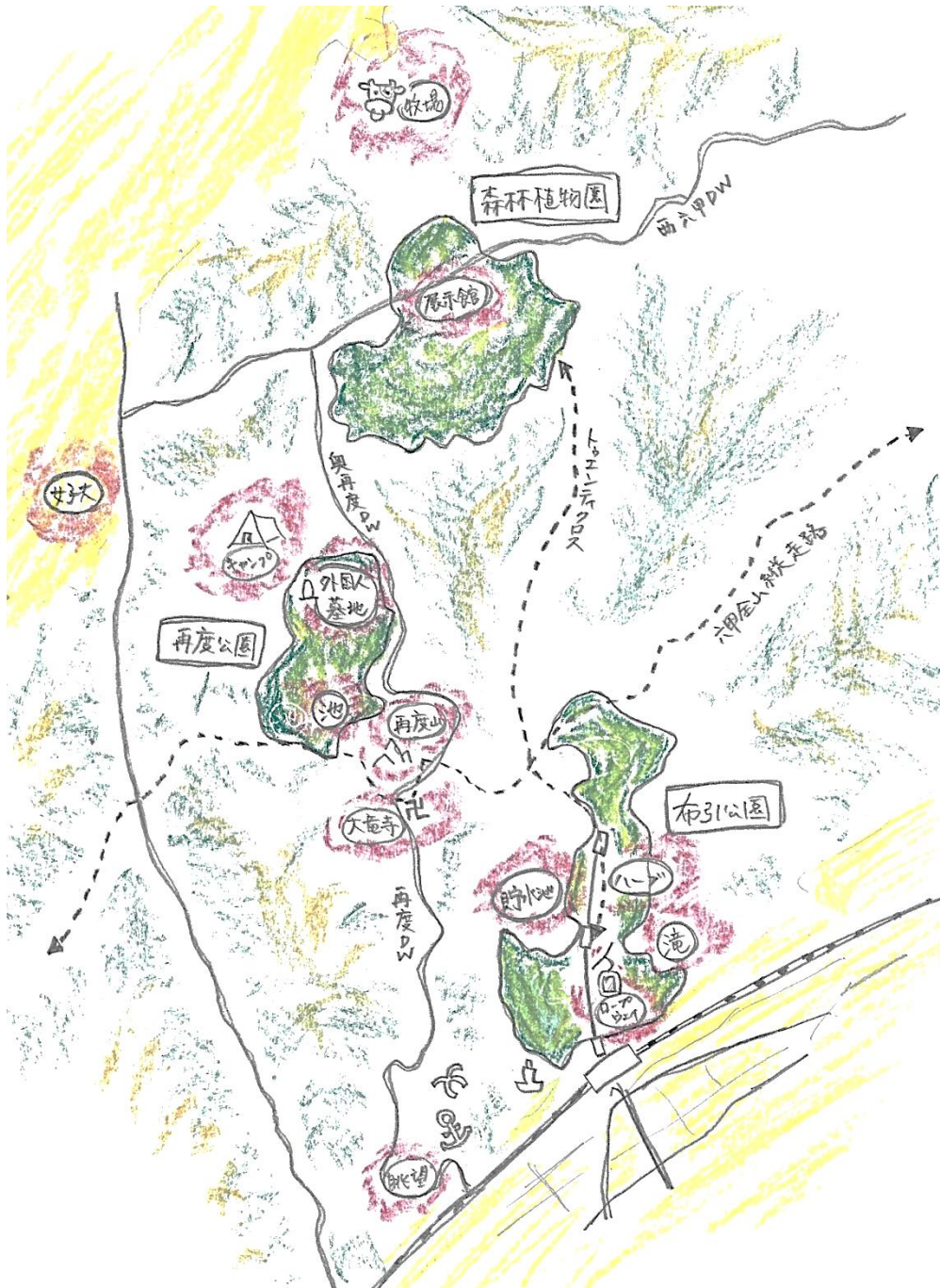


図-23 エリアの魅力分布図

(1) エリアの特徴

布引・再度山森林エリアは、六甲山系に位置し、新神戸駅から容易にアクセスできる布引公園や、国立公園区域内でありながら、三宮駅から車で約30分という至近の場所に、森林植物園、再度公園が立地しています。布引の滝や布引貯水池など自然や歴史を気軽に楽しめる布引公園や、国の名勝であり市民参画の森づくりの拠点である再度公園、日本有数のアジサイの名所である森林植物園などニーズに応じてだれもが神戸の自然や歴史を体感できる資源が充実しています。

(2) エリアの戦略

大都市と大自然が共存している稀有な立地環境を活かし、自然を観る、楽しむ、学ぶことが気軽に体感できるとともに、豊かな自然を継承していくため、「布引・再度山森林パークス」の戦略を以下のとおり考えました。

- 1) ここにしかない風景を磨き、発信する
- 2) 六甲山と人の関わりを体感する「学びと発見」の場とする
- 3) 六甲山の森林整備のシンボルとなる

(3) 具体的な取組み例

エリアの特徴を活かしさらに伸ばすための3つの戦略に沿った具体的な取組み例です。

1) 「ここにしかない風景」を磨き、発信する

①個性や希少性を丹念に磨いて発信

(指定管理者×市)

(森林植物園)

- ・単なる見本園でなく生きた植物本来の姿を森林そのものとして展示
(博物館相当施設)

- ・固有動植物の展示(スミスネズミなど)

(布引公園)

- ・新神戸駅から徒歩で行ける布引の滝周辺環境整備
- ・日本最大級のハーブ園としてハーブのある暮らしの提案、夜間演出

(再度公園)

- ・国指定名勝の魅力向上・PR
(再度公園・再度山永久植生保存地・外国人墓地)

②民活導入等による自然に親しむ機会の拡充

(指定管理者×民間×市)

- ・森林アクティビティ等の展開
- ・園の個性や地産地消にこだわった食の機会の提供

③エリアの魅力の世界に発信する目標の設定

(指定管理者×民間×市)

- ・観光地格付けガイドへの掲載
(例：ミシュラン・グリーンガイドの星(3つ星)の獲得)



図-24 布引・再度山森林パークスの考え方



国指定名勝(再度公園)

2) 六甲山と人の関わりを伝え「学びと発見」の場とする

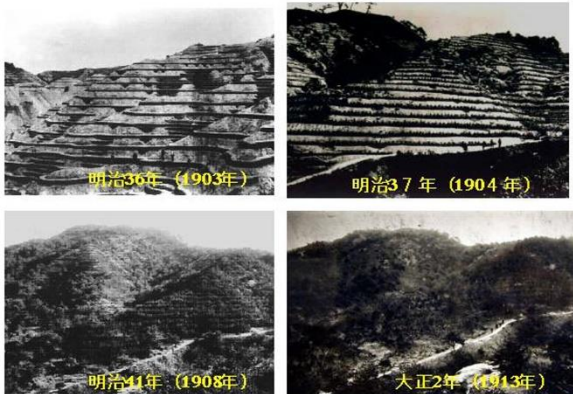
- ①市民参加の森づくりの継承 (市民×市)
- ②神戸外国人墓地一般見学の拡大 (市)
- ③近接する施設や学校等との連携 (民間×市)
(洞川教育キャンプ場、親和女子大学、弓削牧場ほか)
- ④六甲山と先人との関わりへの伝承 (民間×市)
(本多静六、リチャード・G・スミス、
外国人墓地に眠る先人等の学びの機会)
- ⑤インバウンド向け体験プログラム (民間×市)
・紅葉狩り、山ヨガ、大師道を巡る歴史ガイドツアー、毎日登山への参加 等



市民参加「アナベルの森」づくりの様子(森林植物園)

3) 六甲山の森林整備のシンボルとなる

- ①六甲山森林整備戦略に基づく「都市林こうべの森」の再生
・再度公園、森林植物園及び周辺市有林を含めた森林の保全・活用とさらなる連携
(大学・研究機関×兵庫県・市)
- ②六甲山の植林発祥の地である再度山での見本林となる森林保全及び科学的知見の集積
・再度山永久植生保存地調査の永続実施
(大学・研究機関×兵庫県・市)



再度山 植林の様子



森林整備体験会(木こり合宿)の様子
(北区有野町唐櫃)

5. イメージプランー3 <郊外里山パークス>

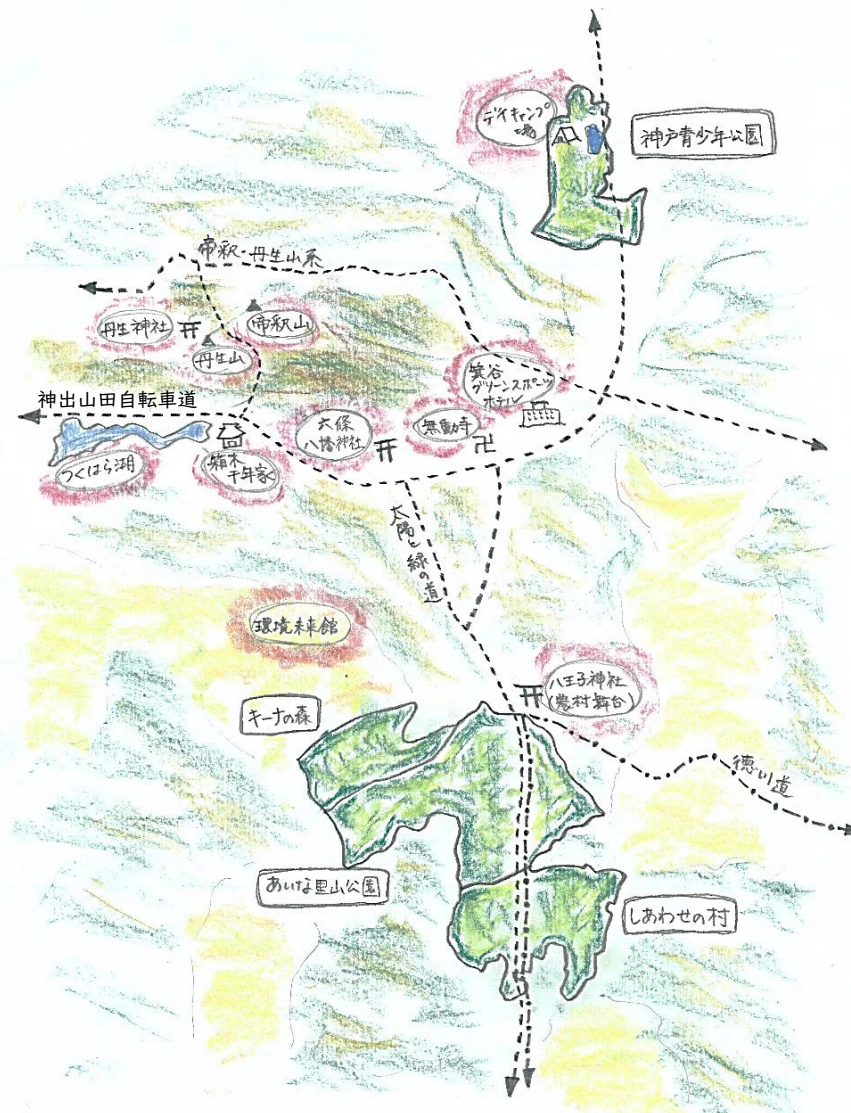


図-25 エリアの魅力分布図

(1) エリアの特徴

郊外（田園・山岳（奥山））エリアの特徴は、瀬戸内や六甲山とは趣が異なる個性豊かな自然資源が存在し、神戸青少年公園、あいな里山公園、しあわせの村、キーナの森と、それらをつなぐ太陽と緑の道、近畿自然歩道などのハイキングコースや神出山田自転車道沿いには、歴史文化資源（社寺、農村歌舞伎舞台、歌碑、石標等）等が点在しています。

(2) エリアの戦略

今までポテンシャルがあるにも関わらず、受け入れ態勢が不十分なところや戦略的に発信されていなかった郊外エリアについて、知る人ぞ知る資源に磨きをかけるとともに、資源間の連携方策や市内外への広報PRの強化を図るため、「郊外里山パークス」の戦略を以下のとおり考えました。

- 1) 知る人ぞ知る資源に磨きをかけ魅力を高める
- 2) 里山・農村エリアとまちをつなぐ

(3) 具体的な取組み例

エリアの特徴を活かしさらに伸ばすための2つの戦略に沿った具体的な取組み例です。

1) 知る人ぞ知る資源に磨きをかけ魅力を高める

① 公園の魅力アップ (各園×市)

(神戸青少年公園)

- ・民間活力による魅力向上・情報発信
- ・園内施設の手入れ(池眺望確保、サイン、散策路等)

(しあわせの村・キーナの森・あいな里山公園)

- ・3園連携イベントの開催
- ・各園の施設の充実・魅力向上

② ハイキングコース、展望施設等の整備 (市)

- ・4園を結ぶハイキング道の手入れや眺望ポイントの整備
- ・市有林等との一体的な森林整備による安全で心地よい森づくり

③ 地域資源の発掘 (地域×民間×市)

- ・園と歴史文化資源をつないだ情報発信(社寺、農村歌舞伎舞台、歌碑、石標等)
- ・郊外のこれまで注目されてこなかった隠れた名木・古木などの保全・PR
- ・市民との協働による歴史的・文化的資源の発掘

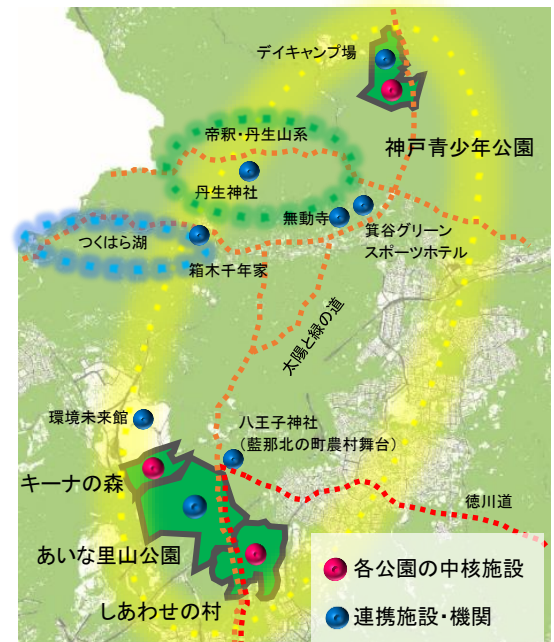


図-26 郊外里山パークスの考え方

2) 里山・農村エリアとまちをつなぐ

① 田園や里山と関わる機会の創出 (地域×民間×行政機関)

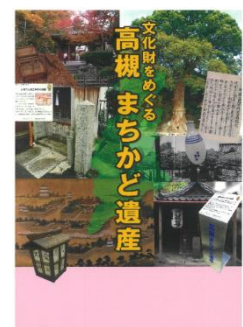
- ・農業体験、森の手入れ等(もりかつなど)の自然体験や環境学習の機会の提供
- ・地域住民と都市住民の協働による森林整備体験の実施
- ・エリアをめぐる歴史文化ハイキングや健康ウォーキング等の実施
- ・里山の協働による手入れと間伐材の活用

② 広報戦略 (民間×行政機関)

- ・調査した資源や経路をわかりやすく表現したマップをHP等で公開
- ・ウォーキングアプリとの連携



キーナの森(ハイキングイベントの様子)



高槻市 地域資源発掘の事例(まちかど遺産)

第7章 ビジョンの展開

本ビジョンでは、大規模公園の将来のあり方を考える上で、「重視すべき視点」を整理し、「基本方針」と「施策展開の具体例」を明らかにするとともに、実現に向けた「取り組みのイメージプラン」を示しています。

今後はこれに基づき、大規模公園が社会的な要請に応じていくために必要なリノベーションやマネジメントの展開方策について具体化を図り、戦略的に取り組んでいきます。

各大規模公園においては、それぞれの公園施設の老朽化度合いや利用の状況、立地特性、周辺環境の変化等を総合的に勘案しながら、現状を踏まえた施策を選択していきます。大規模な再整備が必要なものについては公園リノベーション計画を、さらに民間活力の導入などにより大きくマネジメントの形を変革する際には公園マネジメントプランを策定し、取り組みのメニューを明らかにしたうえで具体的な施策に取り組んでいきます。なおプロセスにおける節目の段階では、様々な見地から幅広く意見聴取を行うとともに、広報・発信や施策の進捗管理にも積極的に取り組みます。

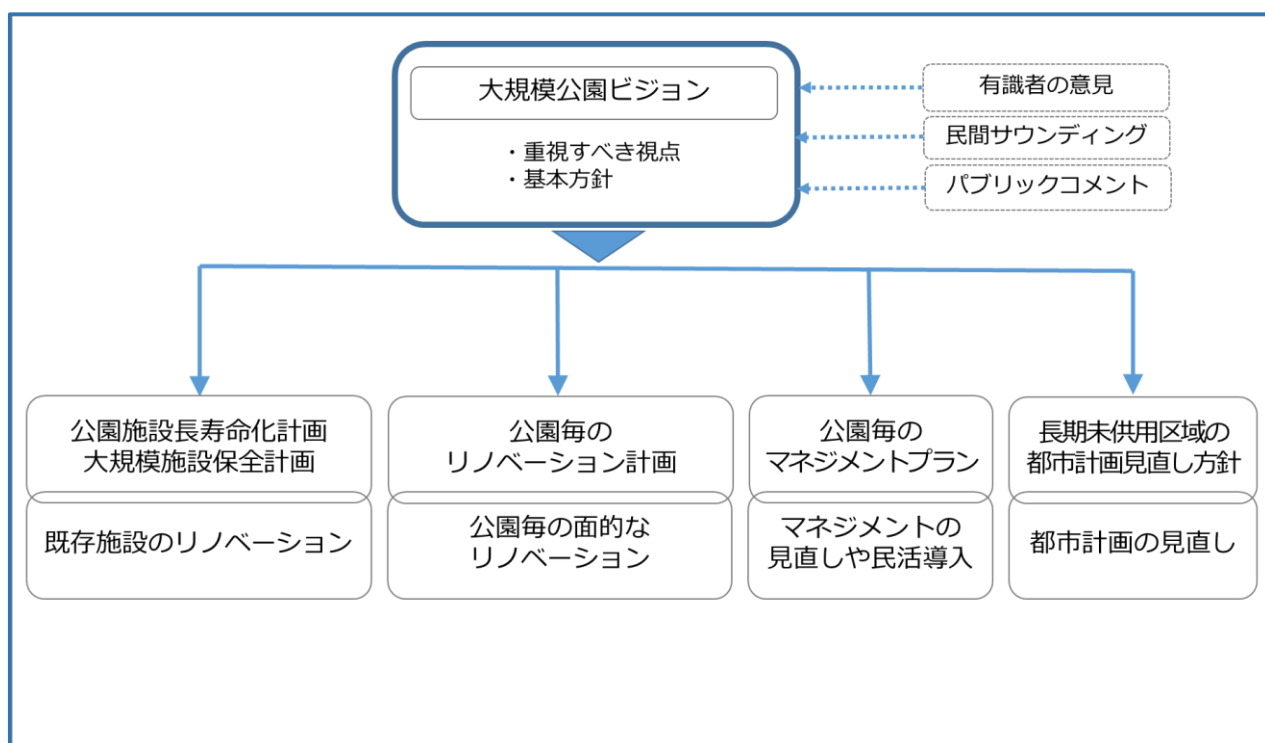
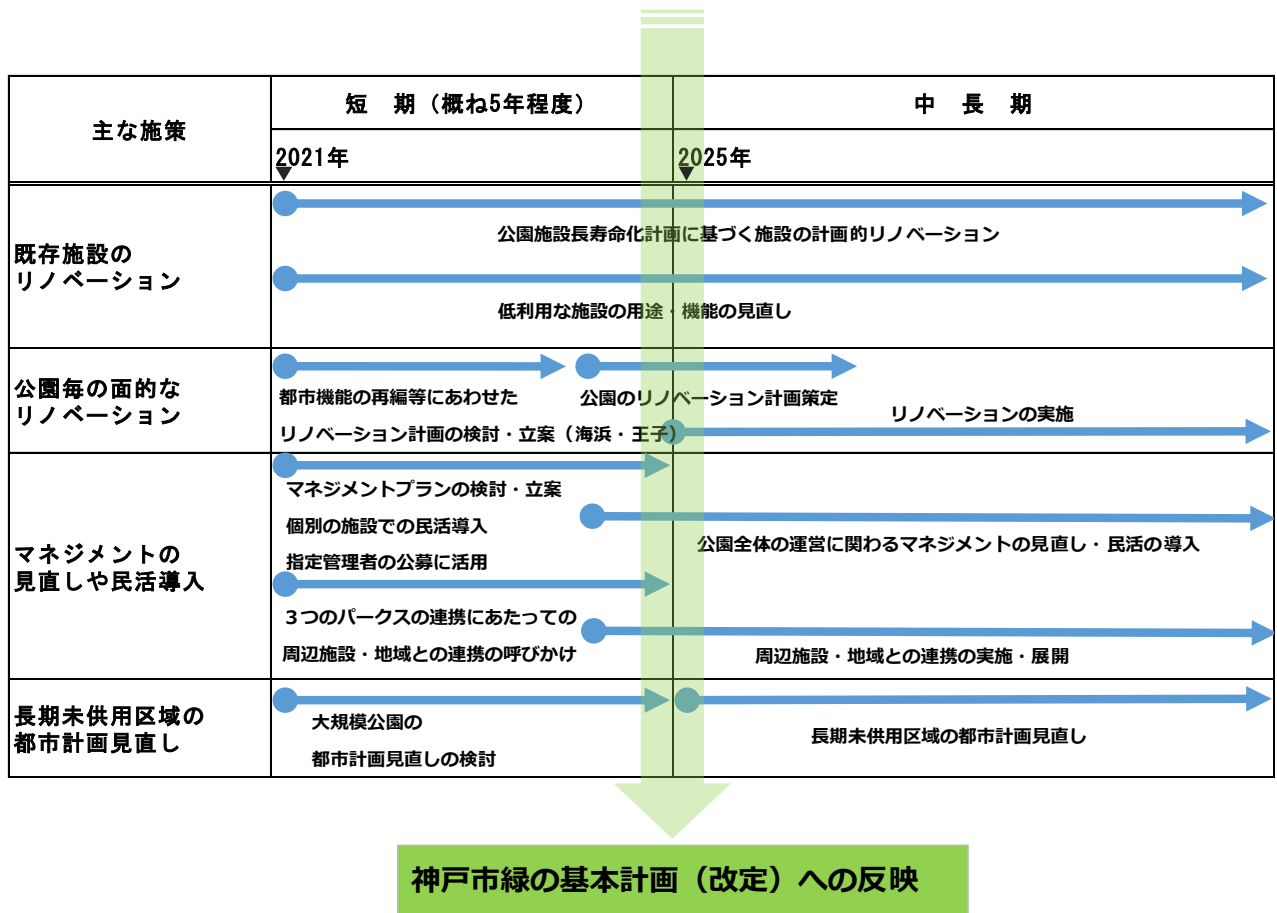


図-27 大規模公園ビジョンの実現に向けたプロセス

1. 施策の進め方

施策は、個々の既存施設のリノベーションのように早期に着手できるものから、公園毎の面的なリノベーションのように長期間に及ぶものまで多岐にわたります。このため、市では取組み内容を短期・中長期に整理し、段階的・継続的に施策を進めていきます。

表-6 施策の進め方（短期・中長期）



2. 広報と発信

市民やNPO、民間事業者を含めた多様な主体に周知するために、パブリックコメント等を経て策定した「大規模公園ビジョン」を広く公表するとともに、各主体との間で本方針を共有して連携を促すための説明資料として、また指定管理者公募の資料として活用するなど、様々な機会を捉えて情報発信や利活用を図ります。

3. 進捗管理とフォローアップ

施策の進捗状況について、定期的に有識者や市民団体等で構成される神戸市公園緑地審議会に報告を行い、重視すべき視点及び基本方針との整合性を確認します。

また、取り組み状況に関する審議会の意見や助言をその後の施策に反映していきます。